

2019年度

岩手県高次脳機能障がい支援普及事業及び  
高次脳機能障がい地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

岩手県リハビリテーション支援センター



# 目次

## ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	8
3	精算書	14
4	会議・研修会等実績	16
	i) 圏域コーディネーター支援研修会	
	ii) 医師・コメディカル対象研修	
	iii) 特別な配慮を必要とする児童・生徒を支援していくための研修会	
	iv) ナイスハートバザール in いわて	
5	当事者交流イベント	35
6	メールニュース	41
7	高次脳機能障がいカルタ	45
III	岩手県内の支援拠点機関一覧	56

## ご挨拶

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

理事長・センター長 大井 清文

当センターは、平成 19 年に岩手県より高次脳機能障がい支援拠点機関の指定を受け、高橋 明 名誉理事長が中心となり、高次脳機能障がい者の疫学、診断・治療から社会参加に渡る広範囲な調査研究および支援活動を行って参りました。しかし、この活動は多くの方々のご協力によりなされてきたものであり、特に岩手県高次脳機能障がい支援普及事業連絡協議会（会長：小川 彰 岩手医科大学理事長）の皆様ならびに岩手県（障がい保健福祉課）のご支援には厚く御礼を申し上げます。

その中で、平成 27 年度には岩手県のご理解のもと高次脳機能障がい地域支援体制整備事業を開始し、その一環として障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点機関が設置されました。これを基盤として令和元年度は、県内に設置された全ての地域支援拠点機関の担当者が一同に会する、圏域支援コーディネーター会議を初めて開催し、今後の支援体制について話し合う機会とさせていただき、課題もございますが好評を得ております。今後も、当事者・家族らが地域に帰った後も安心して過ごすことができるよう、より一層の連携を図りながら地域での支援に努めて参ります。

さて今年度は、いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴのご協力のもと、「高次脳機能障がいカルタ」を新たに作成致しました。障がいの普及啓発のため、イベントや家族会にてこのカルタを実際に参加者に利用していただき、子どもから大人まで多くの方に高次脳機能障がいを知っていただくきっかけとなり、また各方面から使いたいとのご意見も得ております。次年度以降も、引き続き地域への普及啓発等、様々な場面においてこのカルタを活用して参りたいと存じます。

最後に、昨年度より本事業につきましては、毎年冊子にて報告することとなりましたので、お忙しい中とは存じますが是非ご一読いただければ幸いと存じます。そして、今後とも皆様のご協力・ご指導を賜りながら、高次脳機能障がい者及びご家族が住み慣れた地域で、安全にかつ安心して暮らしていけるよう、より一層尽力して参りますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

# I 事業概要

## 高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

### I 本県における現状と課題

#### <障がいの概要>

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

#### <対象者数>

##### 高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751人（地区内訳 盛岡 1,028人、県南 1,054人、沿岸 421人、県北 248人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000人	:	274,000人	=	1,284,732人	:	2,751人

\* 県人口は、岩手県毎月人口（平成26年9月1日現在）

\*（参考）比率：0.00214【B/A】

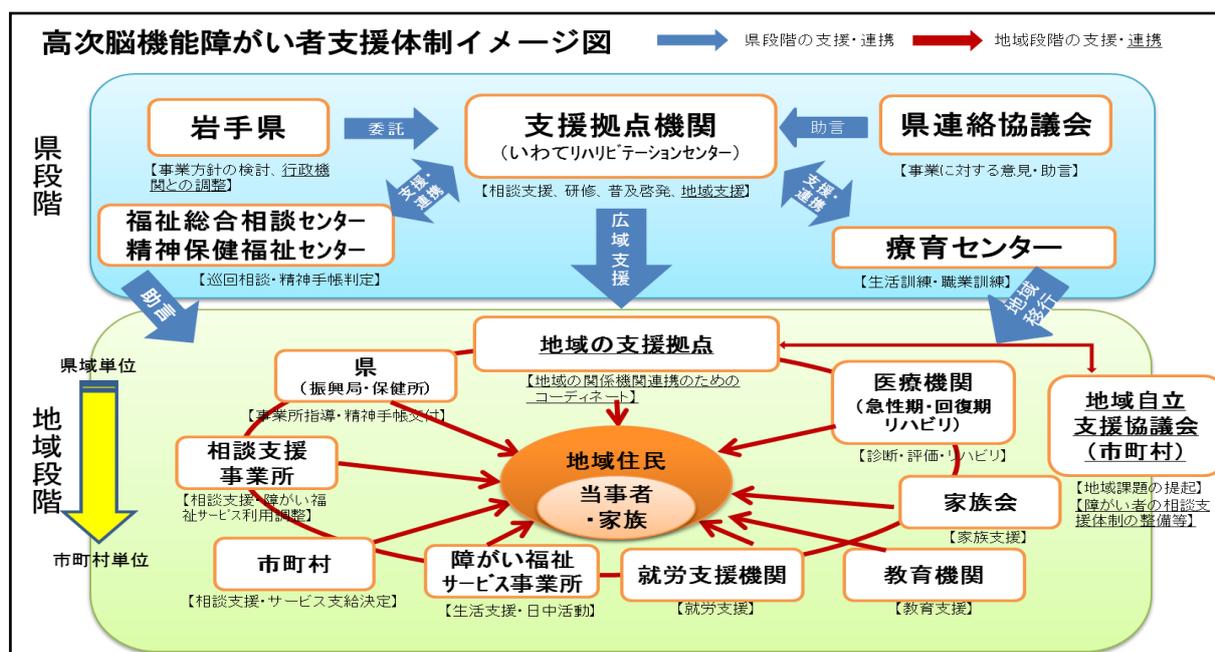
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が18歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

### II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



## 1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） H19～

相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援、関係機関との連携、調整を行う。  
また、普及啓発活動の他、支援者を対象とした研修の実施や地域支援拠点への訪問等、地域での高次脳機能障がい者への取組を支援する。

### 【主な取組内容】

#### (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

##### ① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

##### ② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・正しい理解の促進のためのHP、パンフレット等による普及啓発や相談窓口の周知。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。

##### 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会

令和2年1月10日（金） 13：00～16：30 岩手県自治会館 3階 第2会議室

##### 高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）

令和元年12月9日（月） 19：00～20：50 岩手教育会館 多目的ホール

- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

##### ③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

##### 令和元年度第1回連絡協議会

令和元年8月26日（月） 15：00～16：30 岩手教育会館 カンファレンスルーム200

##### ④ ワーキンググループの設置・運営

事例を通じた支援モデルの構築を図る。

##### 令和元年度第1回ワーキンググループ

令和元年12月3日（火） 15：30～17：00 大通会館リリオ2階 カルチャールーム

#### (2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

##### ① 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

##### ② 地域の支援拠点等への訪問支援等

地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

##### ③ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

##### 圏域相談支援コーディネーター研修会

令和元年10月23日（水） 13：30～16：10 エスポワールいわて 特別ホール

## 2 地域の支援拠点の設置 H27～

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、順次障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。

1年目	2年目	3年目以降
<p><b>■ 高次脳機能障がい者 地域支援体制整備事業</b></p> <p><b>【概要】</b> 地域の関係機関の連携による相談支援体制を整備するために、地域の支援拠点を設置し、高次脳機能障がい者に対する支援を行う。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>① 連絡会の設置・運営 ② 関係機関とのケース会議 ③ 地域の相談支援等 ④ 高次脳機能障がい支援者研修 ⑤ 家族等に対する普及啓発（家族教室等）</p>	<p><b>■ 高次脳機能障がい者 支援普及事業</b></p> <p><b>【概要】</b> 高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。</p> <p><b>【内容】</b></p> <p>⑥ 普及・啓発事業 一般住民、家族、当事者、支援者等への正しい理解の普及啓発</p> <p>※①～⑤は、地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>	<p>※地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業や支援普及事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>

### 【実績】

	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度
2圏域 (気仙・宮古)	体制整備事業	支援普及事業			
2圏域 (久慈・二戸)		体制整備事業	支援普及事業		
2圏域 (胆江・釜石)			体制整備事業	支援普及事業	
2圏域 (盛岡・中部)				体制整備事業	支援普及事業

### 【地域の支援拠点の設置状況】

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南地区

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はありませぬ。

## II 事業実施報告

### 1. 事業報告書

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

#### 1 令和元年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

#### 2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会
  - ① 第1回 令和元年8月23日 岩手教育会館 (出席者31名)
  - ② 第2回 令和2年3月24日 岩手県水産会館 (中止)
- (2) 高次脳機能障がい者支援ワーキンググループ会議  
令和元年12月3日 コミュニケーションギャラリーLiRio (出席者15名)
- (3) 圏域相談支援コーディネーター会議  
令和元年10月23日 エスポワールいわて (出席者13名)

#### 3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 9回開催
- (3) 相談支援コーディネーター会議 15回開催

#### 4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター4名（MSW、臨床心理士、各2名）を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ 974件（4/1～3/31まで）【参考】H30同期間のべ1,004件

相談及び対応の方法	件数	【参考】H30	比較増減
電話	119件	103件	+16
来院／来所	810件	868件	-58
メール・書簡	28件	18件	+10
その他（訪問・同行等）	17件	15件	+2

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ 221件（4/1～3/31まで）【参考】H30同期間のべ162件

相談及び対応の方法	件数	【参考】H30	比較増減
電話	142件	114件	+28
来院／来所	3件	8件	-5
メール・書簡	65件	35件	+30
その他（訪問・同行等）	11件	5件	+6

#### 5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）  
令和元年10月23日 エスポワールいわて（参加者18名）

- (2) 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会（現場支援者対象）  
令和2年1月10日 岩手県自治会館（参加者32名）
- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）  
令和元年12月9日 岩手教育会館（参加者67名）
- (4) 市民向け普及イベント  
令和元年11月16日、17日 イオンモール盛岡にて開催されたナイスハートバザールにおいて、高次脳機能障がいの資料展示と高次脳機能障がいカルタの体験会を行った。

## 6 地域における支援体制整備のための支援

- (1) 宮古圏域：地域支援拠点機関のレインボーネットと協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・令和元年7月5日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）
  - ② 家族教室
    - ・令和元年10月30日 第2回家族教室（職員1名派遣）
    - ・令和2年1月15日 第3回家族教室（職員1名派遣）
- (2) 気仙圏域：地域支援拠点機関の星雲相談室と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・令和2年3月12日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）
  - ② 家族教室
    - ・令和2年1月11日 家族教室（職員1名派遣）
- (3) 久慈圏域：地域生活支援センター久慈と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 研修会
    - ・令和2年2月5日 令和元年度高次脳機能障害研修会（職員1名派遣）
  - ② 研修派遣
    - ・圏域内の相談支援専門員1名を国立障害者リハビリテーションセンターの研修会に派遣
- (4) 釜石圏域：釜石大槌地域障がい者自立支援協議会と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 研修会
    - ・令和2年1月18日 いわて脳損傷リハビリテーション講習会（職員2名派遣）
- (5) 胆江圏域：奥州市・金ヶ崎町障がい者自立支援協議会と協働して地域支援体制の整備を図った。
  - ① 連絡協議会
    - ・令和元年7月25日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）
  - ② ワーキンググループ会議
    - ・令和元年4月17日 第1回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
    - ・令和元年5月24日 第2回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
    - ・令和元年7月10日 第3回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
    - ・令和元年7月25日 第4回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
    - ・令和元年9月20日 第5回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
    - ・令和2年2月14日 第6回ワーキンググループ会議（職員1名派遣）
  - ③ 研修会
    - ・令和元年11月20日 いわて脳損傷リハビリテーション講習会（職員2名派遣）
  - ④ 家族教室
    - ・令和元年9月28日 第1回家族教室（職員1名派遣）
  - ⑤ 事例検討会
    - ・令和元年12月19日 事例検討会（職員1名派遣）

(6) 盛岡圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴと協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和元年9月5日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）

② 家族教室

・令和元年9月7日 第4回家族教室（職員1名派遣）

(7) 岩手中部圏域：いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南支部と協働して地域支援体制の整備を図った。

① 連絡協議会

・令和元年8月28日 第1回連絡協議会（職員1名派遣）

② 家族教室

・令和2年1月30日 第1回家族教室（職員1名派遣）

・令和2年2月13日 第2回家族教室（職員1名派遣）

③ 研修会

・令和2年2月13日 ミニ講演会&第2回家族教室（職員1名派遣）

(8) 高次脳機能障がいカルタ：チラシ、遊び方ガイドの作成、カルタを使った普及活動を行った。

## 7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

当センター及び国立障害者リハビリテーションセンターのホームページにて研修情報を掲載した。また、メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。さらに、高次脳機能障がいカルタを利用し、一般市民向けに高次脳機能障がいのPR活動を行った。

## 8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

高次脳機能障がいの普及啓発を目的に当事者・家族を中心とした交流会を開催した。

令和元年10月5日 じゃじゃじゃ交流会（参加者81名）

## 9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

### (1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第1回	6/26	所沢市	4名（県庁・二戸圏域・久慈圏域・リハセン担当者）
第2回	2/28	東京都	中止
高次脳機能障害東北ブロック会議	10/25	郡山市	2名（県庁・リハセン担当者）
市町村関係職員研修会	4/19	盛岡市	講師として職員1名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会 胆江会場	11/20	奥州市	実行委員として職員2名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会 釜石会場	1/18	釜石市	実行委員として職員2名派遣
岩手県保健福祉環境行政セミナー	2/7	盛岡市	報告者として職員1名派遣

### (2) 機関としての連携

①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」

・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。

②岩手県立療育センター

・共通して支援を行ったケースについて情報交換を行った。

③岩手障害者職業センター

- ・高次脳機能障がいへのケース支援を協働で行った。

**10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣**

- (1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議  
第1回 令和元年6月26日 国立障害者リハビリテーションセンター（職員1名派遣）
- (2) 日本高次脳機能障害友の会第18回全国大会  
令和元年10月18日～19日 香川県高松市（職員1名派遣）
- (3) 高次脳機能障害関係職員研修会  
令和元年6月27日～28日 国立障害者リハビリテーションセンター（職員1名派遣）
- (4) 就業支援実践研修 高次脳機能障害コース  
令和元年10月18日 花巻市（職員1名派遣）
- (5) 人材開発・養成講座  
令和2年2月2日 東京（職員1名派遣）

## 2. 相談支援状況

いわてリハビリテーションセンター

### 高次脳機能障害支援状況（令和元年度）

	新規	継続	主治医		方法								カンファレンス	合計
					面談		電話		訪問		文書			
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接		
4月	5	98	87	16	80	0	13	9	3	2	3	4	1	114
5月	2	59	55	6	48	0	3	4	4	2	2	5	1	68
6月	6	70	69	7	69	0	4	6	1	1	4	1	1	86
7月	5	90	83	12	81	3	1	11	0	0	1	19	0	116
8月	8	73	71	10	73	0	6	5	3	0	3	8	2	100
9月	2	85	76	10	61	0	12	11	1	0	8	4	0	97
10月	5	80	64	21	64	0	15	11	3	4	2	4	1	104
11月	8	78	62	23	66	0	15	16	1	1	0	4	0	103
12月	9	81	67	23	63	0	16	28	0	0	0	2	0	109
1月	3	87	83	7	68	0	8	11	1	0	5	4	0	97
2月	8	76	91	14	61	0	11	15	0	1	0	3	1	92
3月	6	89	79	16	76	0	15	15	0	0	0	7	0	113
合計	67	966	887	165	810	3	119	142	17	11	28	65	7	1199

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
外来受診	8	3	2	4	5	7	14	10	16	9	11	9	98
入院検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
診断/評価	17	26	5	12	12	11	8	10	9	4	5	7	126
医療/生活	1	0	1	3	2	0	2	0	1	1	1	0	12
交通事故関係	0	0	1	2	4	2	2	3	4	1	4	2	25
障害者手帳関係	3	1	2	1	2	2	4	5	0	2	7	11	40
福祉サービス利用	7	4	2	5	7	9	6	9	16	11	6	14	96
年金/社会保障制度	3	0	1	3	1	7	4	3	5	4	17	5	53
日常生活	36	30	31	38	29	28	25	27	29	43	22	26	364
家族/対人関係	0	2	0	1	0	0	1	0	0	0	8	2	14
復学/教育	10	2	6	12	11	5	7	7	12	14	11	10	107
復職/就業	44	36	36	44	33	44	32	40	30	35	22	38	434
職業訓練/評価	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	5
自動車運転関係	6	2	2	3	3	8	4	10	10	4	5	7	64
障害理解/対応	1	0	2	0	4	2	1	2	2	0	0	8	22
家族会関係	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
その他	2	2	3	1	1	2	2	1	1	1	35	1	52

# 令和元年度高次脳機能障がい支援普及事業相談支援状況報告書

いわてリハビリテーションセンター

## 【相談支援の概要】

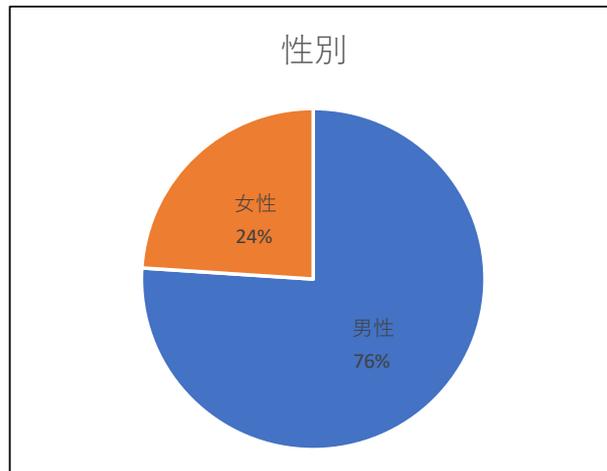
1 相談件数 延べ1,195件（4/1～3/31）実人数96人 ※平成30年度同期間実績：1,004件（実人数89名）

## 2 相談対象者の属性

### (1) 性別

男性：73名（76%）

女性：23名（24%）



### (2) 年齢構成

10歳以下：3名（3%）

10歳代：11名（11%）

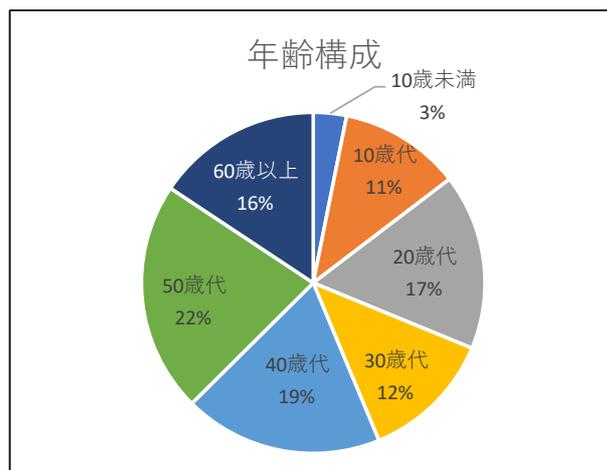
20歳代：16名（17%）

30歳代：12名（12%）

40歳代：18名（19%）

50歳代：21名（22%）

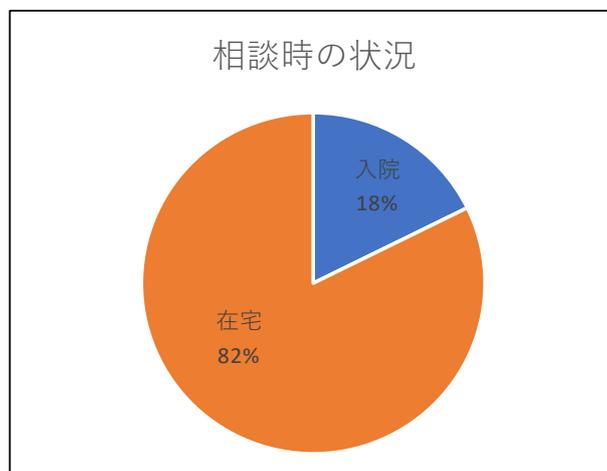
60歳以上：15名（16%）



### (3) 相談時の状況

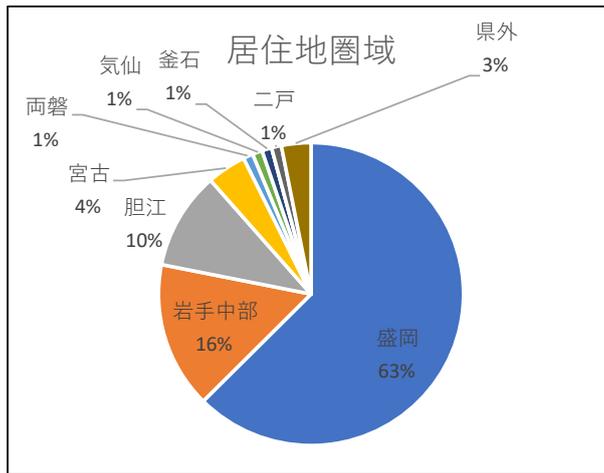
入院中：17名（18%）

在宅：79名（82%）



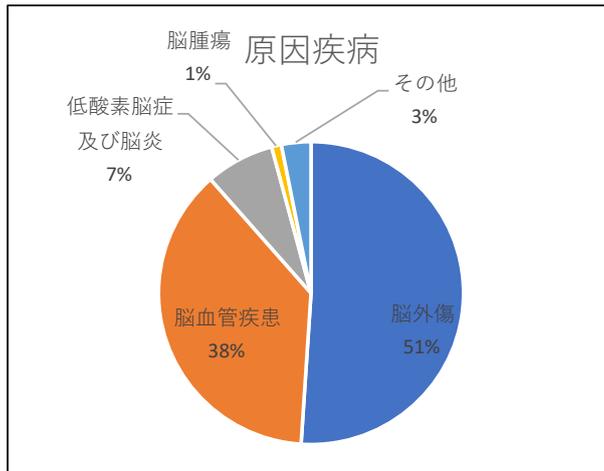
(4) 居住地圏域

盛岡：60名（63%）  
岩手中部：15名（16%）  
胆江：10名（10%）  
宮古：4名（4%）  
両磐：1名（1%）  
気仙：1名（1%）  
釜石：1名（1%）  
二戸：1名（1%）  
久慈：0名（0%）  
県外：3名（3%）



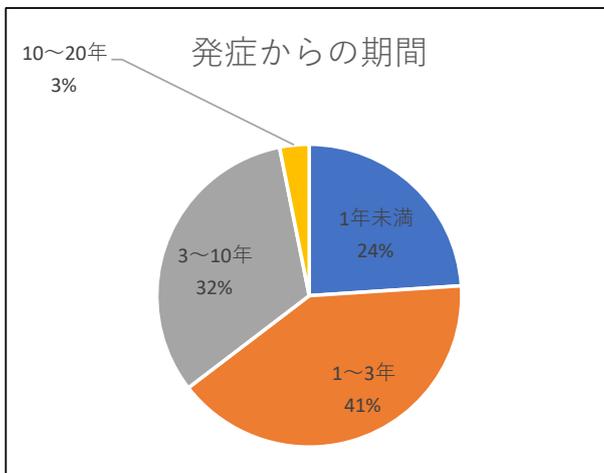
(5) 原因傷病

脳外傷：49名（53%）  
脳血管疾患：36名（39%）  
低酸素脳症・脳炎：7名（7%）  
脳腫瘍：1名（1%）  
その他：3名（3%）  
（その他内訳：脳震盪、急性脳症）



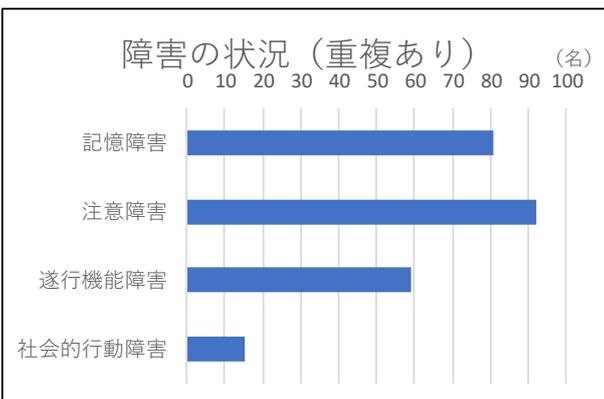
(6) 発症からの期間

1年未満：23名（24%）  
1～3年：39名（41%）  
3～10年：31名（32%）  
10～20年：3名（3%）



(7) 障害の状況（重複あり）

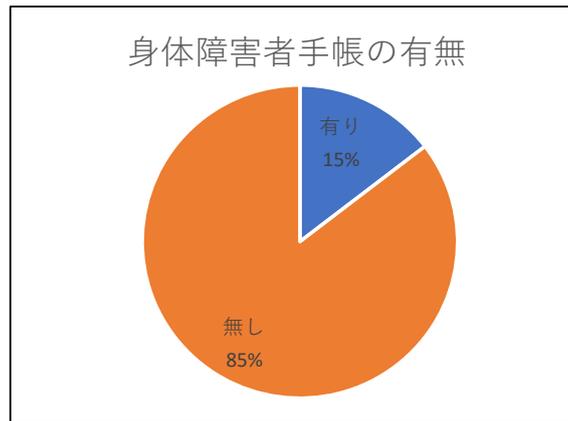
記憶障害：81名  
注意障害：92名  
遂行機能障害：59名  
社会的行動障害：15名



(8) 身体障害者手帳の有無

有り：14名（15%）

無し：82名（85%）

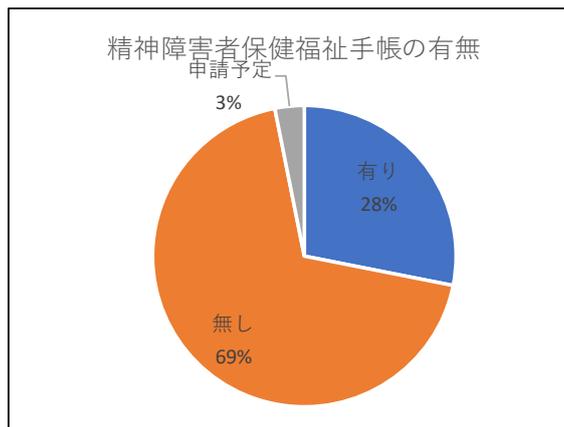


(9) 精神保健福祉手帳の有無

有り：27名（28%）

無し：66名（69%）

申請予定：3名（3%）



(10) 障害年金の受給状況

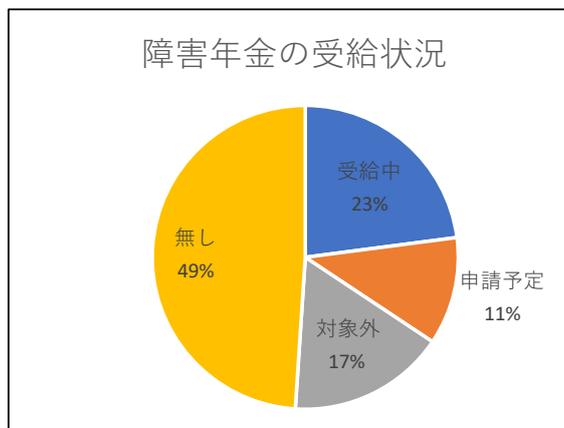
受給中：22名（23%）

申請予定：11名（11%）

対象外：16名（17%）

無し：47名（49%）

（無し内訳：希望無し、老齢年金受給中）

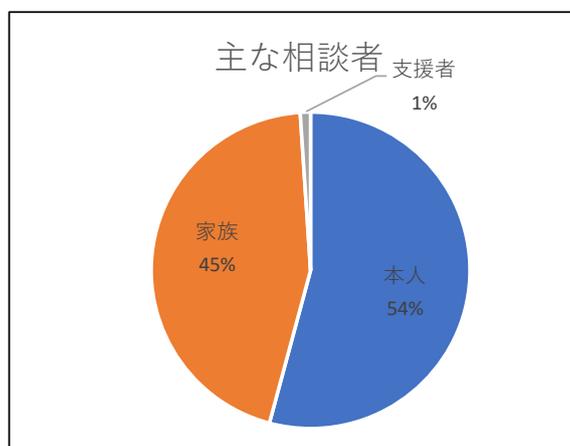


3 主な相談者

本人：52名（55%）

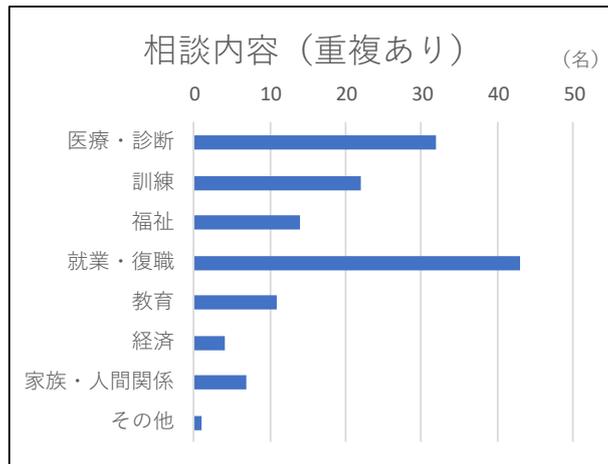
家族：43名（45%）

支援者：1名（1%）



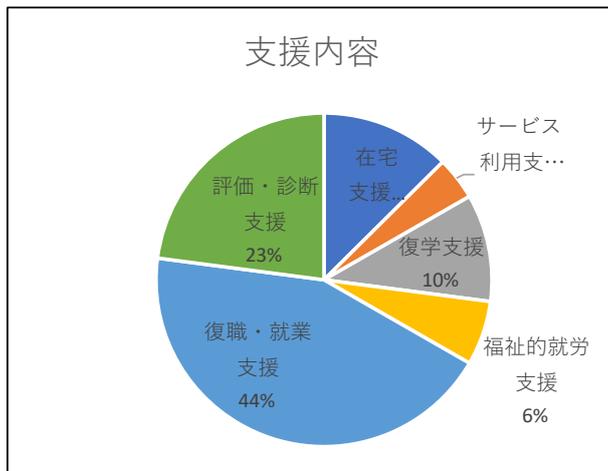
4 相談内容（重複）

医療・診断：32名  
 訓練：22名  
 福祉：14名  
 就業・復職：43名  
 教育：11名  
 経済：4名  
 家族・人間関係：7名  
 その他：1名



5 支援内容

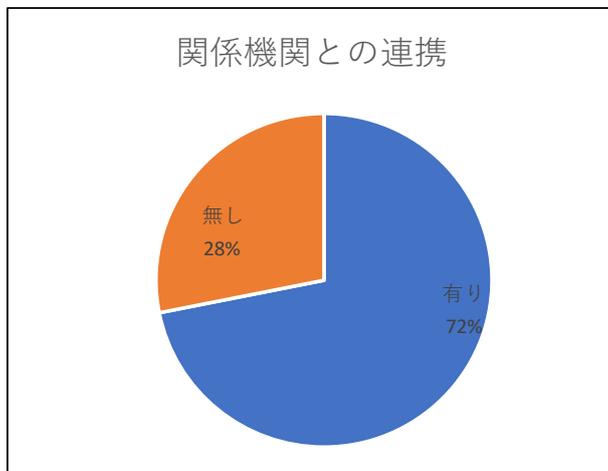
在宅支援：12名（13%）  
 サービス利用支援：4名（4%）  
 復学支援：10名（10%）  
 福祉的就労支援：6名（6%）  
 復職・就業支援：42名（44%）  
 評価診断支援：22名（23%）



6 関係機関との連携

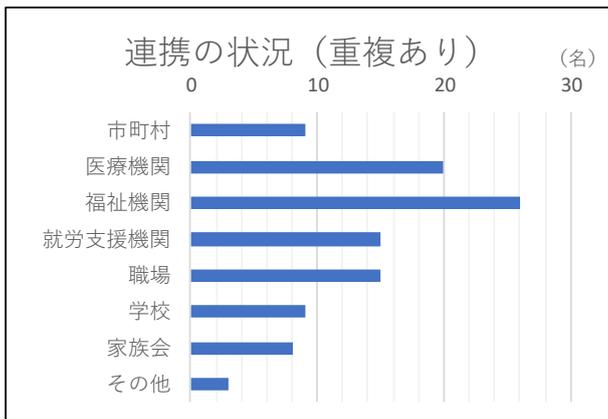
(1) 連携の有無

有り：69名（72%）  
 無し：27名（28%）



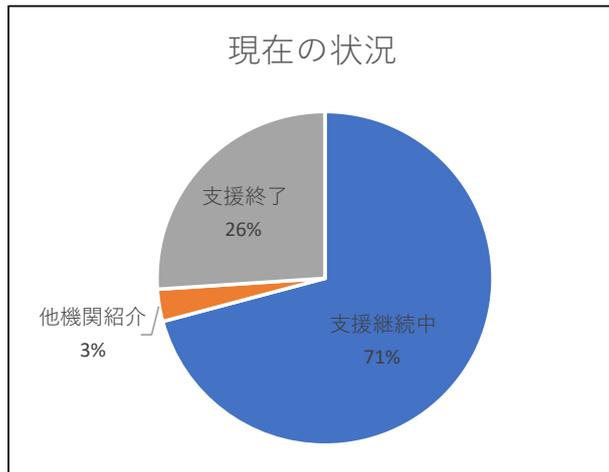
(2) 連携の状況（重複）

市町村：9名  
 医療機関：20名  
 福祉機関：26名  
 就労支援機関：15名  
 職場：15名  
 学校：9名  
 家族会：8名  
 その他：3名



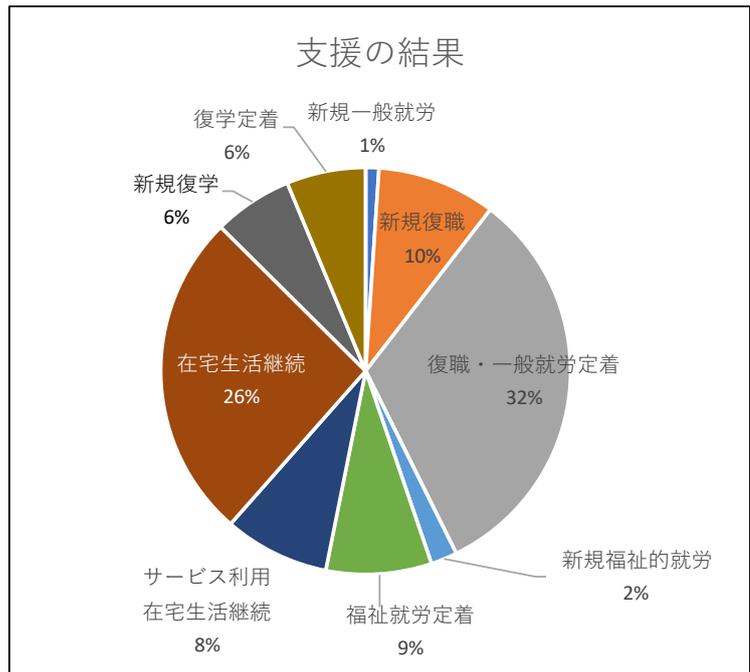
7 現在の状況

支援継続中：68名（71%）  
 他機関紹介：3名（3%）  
 支援終了：25名（26%）



8 支援の結果

☆新規一般就労:1名	小計41名
☆新規復職:9名	
復職・一般就労定着:31名	
復職・就職活動継続:0名	
☆新規福祉的就労:2名	小計10名
福祉的就労定着:8名	
サービス利用	小計33名
在宅生活継続:8名	
在宅生活継続:25名	
☆新規復学:6名	小計12名
復学定着:6名	
その他:0名	小計0名



9 相談支援例

- 障害者職業センターと連携して職場復帰を支援しているケース
- 職場復帰後のフォローアップを継続しているケース
- 復学後の小・中学生のフォローアップを継続しているケース
- 生生学舎アダージョと連携のうえ、相互で訓練を行っているケース
- 地域の病院からの検査及び評価依頼で関わったケース
- 社会的行動障害があり、家族生活・地域生活のフォローアップをしているケース
- 介護保険と障害者総合支援法を併用し、関係機関と連携して支援を行っているケース

### 3. 精算書

#### 令和元年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	3,358,872	3,358,872	0	岩手県
2 自己資金	0	54,368	△ 54,368	
合計	3,358,872	3,413,240	△ 54,368	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	1,600,000	2,013,576	△ 413,576	職員分人件費
2 諸謝金	534,000	324,570	209,430	委員等報償費
3 旅費交通費	155,000	155,185	△ 185	委員及びコーディネーター等分
4 印刷製本費	286,000	196,602	89,398	研修会、協議会資料、かるたの印刷代等
5 通信運搬費	147,520	171,054	△ 23,534	研修会、協議会等の郵送料等
6 会議費	56,000	90,949	△ 34,949	連絡協議会の際の茶菓代等
7 賃借料	275,000	155,952	119,048	研修会、協議会等の会場経費
8 租税公課	305,352	305,352	0	消費税
合計	3,358,872	3,413,240	△ 54,368	

令和元年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	6,025,360	6,025,360	0	岩手県
2 自己資金	0	76,243	△ 76,243	
合計	6,025,360	6,101,603	△ 76,243	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	3,800,000	4,317,702	△ 517,702	職員分人件費
2 諸謝金	20,000	7,800	12,200	研修会講師謝金
3 旅費交通費	696,000	402,825	293,175	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	325,000	415,950	△ 90,950	研修会資料等
5 通信運搬費	89,600	82,500	7,100	研修会案内の郵送料等
6 賃借料	546,000	315,066	230,934	研修会会場費、公用車及び、パソコンリース料
7 会議費	1,000	12,000	△ 11,000	研修会講師昼食代
8 租税公課	547,760	547,760	0	消費税
合計	6,025,360	6,101,603	△ 76,243	

## 4 会議・研修会・イベント開催実績

### ● 会議

日	会議名	参加者数
令和元年 8月26日	第1回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	31名
令和元年 10月23日	圏域相談支援コーディネーター会議	13名
令和元年 12月3日	高次脳機能障がい者支援 ワーキンググループ会議	15名
令和2年 3月24日	第2回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	新型コロナウイルスの 流行状況により中止

### ● イベント

日	イベント名	内容
令和元年 11月16日～17日	ナイスハートバザール inいわて	・高次脳機能障がい カルタの体験会 ・ヘルプマークのPR

● 研修会

日	研修会名	テーマ	講師・報告者	参加者数
令和元年 10月23日	圏域相談支援コーディネーター 研修会	岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業の概要について	岩手県保健福祉部 障がい保健福祉課 主査 山崎 伸二 氏	18名
		実施報告：地域支援拠点の取り組みについて	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ 代表 堀間 幸子 氏	
		事例検討：高次脳機能障害のある方が住み慣れた地域で生活するための支援について	宮古圏域障がい者福祉推進ネット レインボーネット 相談支援専門員 巖岩 梢 氏	
令和元年 12月9日	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象)	社会的行動障害の理解と対応 原因を考えてみる	京都大学医学部附属病院 精神科・神経科 講師 上田 敬太 氏	67名
令和2年 1月10日	特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための 研修会	小児の高次脳機能障がいとその支援について	中央大学 非常勤講師 公認心理士・臨床心理士 山口 加代子 氏	32名

## i) 圏域相談支援コーディネーター研修会

### 令和元年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業 圏域相談支援コーディネーター研修会開催要綱

#### 1 目的

高次脳機能障害の多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、家族からも理解されにくい状況にあります。また、社会生活上様々な支障が生じていても、身体機能に障害がない場合は、社会的な支援がされにくい状況にあります。

本研修会はこの障がいの支援を行う専門職を対象に、その特性とその対応について理解を深めるとともに地域での支援ネットワークの推進を目的に開催します。

#### 2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

#### 3 期日

令和元年10月23日(水) 13:30~16:10

#### 4 会場

エスポワールいわて 特別ホール  
〒020-0021 盛岡市中央通1丁目1-38  
電話 019(623)6251 FAX 019(623)6251

#### 5 対象

圏域相談支援コーディネーター及び相談支援事業所職員等  
※これまでに高次脳機能障がいに関する研修会を受講したことがある方  
※高次脳機能障がいに関する基礎的な知識を有する方

#### 6 定員 20名程度

#### 7 内容 別紙日程表のとおり

#### 8 参加申込み

別紙の参加申込書により、

**10月15日(火)までに下記あてに FAX 又は郵送にてお申し込み下さい。**

いわてリハビリテーションセンター (担当: 高次脳機能障がい担当 上田・大江)  
〒020-0003 岩手県紫石町七ツ森16-243 TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807

※会場の都合により、定員になり次第申込みを締め切ります。

ご参加頂けない場合のみご連絡を致します。

### 令和元年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業 圏域相談支援コーディネーター研修会日程表

時間	内容	講師
13:00~	受付	
13:30~ 14:00	行政説明 「岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業の概要について」	岩手県保健福祉部障がい保健福祉課 主査 山崎 伸二 氏
14:00~ 15:00	活動報告 「高次脳機能障がい地域支援拠点の取り組みについて」	いわて高次脳機能障がい者の会イーハトーブ 代表 堀間 幸子 氏
15:00~ 15:10	休憩	
15:10~ 16:10	事例報告・グループワーク 「高次脳機能障害のある方が住み慣れた地域で生活するための支援について」	いわてリハビリテーションセンター 総合相談科長 上田 大介
16:10	終了	



## 圏域相談支援コーディネーター研修会 アンケート結果

日時：令和元年10月23日（水）13：30～16：10

会場：エスポワールいわて 特別ホール

参加者：17名 回答者：17名 回答率：100%

### 1. 受講者について

勤務先			
相談支援事業所	12	その他	4
		無回答	1

所在地									
盛岡市	3	大船渡市	2	矢巾町	1	奥州市	4	一戸町	1
久慈市	1	北上市	1	宮古市	1	釜石市	1	無回答	2

### 2. 研修プログラムについて

2-1 行政報告	
A: 大変参考になった	9
B: 参考になった	5
C: 普通	2
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	1

#### 【意見・感想・詳しく聞きたかったこと】

- ・いつもありがとうございます。
- ・あまり変わり映えしなかった。行政なので仕方ないとは思いますが。
- ・岩手県の高次脳機能障害の取り組み概要が理解できた。
- ・岩手県の取組みが理解できた。

2-2 地域活動報告	
A: 大変参考になった	12
B: 参考になった	4
C: 普通	0
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	1

【意見・感想・詳しく聞きたかったこと】

- ・ピアの必要性をあらためて強く感じました。
- ・大丈夫です。言葉の真を考えること・・・歩み背景を大切にすること・・・改めて大切な学びとなりました。
- ・家族教室の案内などの周知について。
- ・現在、支援拠点ではないですが、地域の資源として、これからも積極的に協力していきたいと思いました。
- ・出前講座、機会があればよろしくお願いします。
- ・盛岡圏域では沢山の活動をされていることを知れて良かったです。自分の圏域でも活かせたらと思います。
- ・家族の視点が参考になりました。
- ・家族会の取組み、経過がわかった。

2-3 グループワーク	
A: 大変参考になった	14
B: 参考になった	3
C: 普通	0
D: あまり参考にならなかった	0
無回答	0

【意見・感想・詳しく聞きたかったこと】

- ・実際に実現する事が難しい事も多いと思いますが、他職種の方々がつながり続ける事で少しずつ良い方向に進む気がしました。
- ・普段の支援や調整お疲れ様です。質問への返答、情報提供用紙の充実さから日頃のケースワークの丁寧さを感じました。明日の励みとなりました。
- ・ご本人の意向、意思の確認のところで施設職員など本人に身近な人が持っている「こうすれば大丈夫、自宅で暮らせる」という意見。
- ・地域生活を支えていく上で、視野の広げ方や連携の仕方などを新しい気づきにつながりました。
- ・各班、多様な見方があり参考になった。
- ・グループワークで様々な意見を伺えたこと。事例検討と実際の事例の状況など参考になった。
- ・事例検討と実際の支援とでは、かなり難しいところがあるだろうと感じました。
- ・Mさんの気持ちを大切に支援していくためには、様々なサービスを利用することが大事だった。
- ・日々お疲れ様です。うまくいきますよう、お祈りしております。
- ・なかなか難しいケースで、いろいろ考えることができて良かった。
- ・日々のご対応お疲れ様です。ご本人の願いと家族の思いをひとつにすることって、本当に難しいな・・・と事例を通して思いました。貴重な事例ありがとうございました。

### 3. 意見・感想

- ・いつもお世話になってます。これからもたくさん勉強させて下さい。
- ・ピアの方の声、こういう暮らしができているという話を聞く機会があればと思います。
- ・研修会に参加させていただき、ありがとうございます。このような機会があることで、新しい気づきやつながりを作ることができます。これからもよろしくお願いします。
- ・参加者が増える対策を考えてほしいです。
- ・高次脳機能障害の特徴、症状で困っている方の事例（サービス利用やインフォーマル支援の利用）について聞きたいです。医療との連携についても教えてほしいです。事業が終わった後、二戸圏域でも普及、啓発も下火になっているので関係機関の力添えをいただきたいです。（本人への情報等）
- ・情報ありましたら今後もいろいろいただきたいです。よろしくお願いします。県や協議会の取り組みが、もっと市町村や地域レベルまで知れ渡ると良いと思います。思います。
- ・今後、圏域での研修会を検討しています。その際には、ご指導よろしくお願いします。
- ・初めての参加でしたが、とても勉強になりました。
- ・事例報告がとても勉強になった。いろいろな人と話ができて良かった。このつながりを大切にしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・高次脳機能障害の者が地域で暮らした時の困り感が色々ありますが、その具体的な内容や地域の実情が視覚化できると良いと思いました。
- ・本日は勉強させていただきありがとうございました。また機会があれば参加したいと思います。
- ・事例をあつかったグループワークは、とても良い雰囲気でした。また、当方の事業所の支援のヒントもいただきました。企画お疲れ様でした。

## ii) 高次脳機能障害研修会（医師及びコメディカル対象）

**高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱**

- 1 目的  
「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本研修会では、京都大学医学部付属病院 精神科・神経科 講師の上田敬太先生をお招きし、高次脳機能障がいの中でも特に社会的行動障がいについて講演をいただき、高次脳機能障がいに関する知識と理解を深めていくことを目的とします。尚、本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。
- 2 主催  
いわてリハビリテーションセンター
- 3 共催  
岩手高次脳機能障害研究会
- 3 後援  
岩手県医師会
- 4 期日  
令和元年12月9日（月）19：00～20：50
- 5 会場  
岩手教育会館 多目的ホール
- 6 対象  
県内の脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル
- 7 日程及び内容

時間	内容	担当
18：30～	受付	
19：00～ 19：10	開会挨拶	岩手医科大学脳神経外科学講座 教授 岩手医科大学附属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生
19：10～ 20：40	特別講演 「社会的行動障害の理解と対応 原因を考えてみる」	京都大学医学部附属病院 精神科・神経科 講師 上田敬太先生
20：40～ 20：50	閉会挨拶	いわてリハビリテーションセンター

- 8 参加経費  
研修参加費-----無料
- 9 申込方法等  
・医師-----事前申込不要  
・コメディカル-----事前申込必要

※ 会場の都合上、医師以外の医療従事者については制限をさせて頂く場合がございます。  
※ 定員オーバーの場合のみ連絡を致します。

- 10 申込期限：令和元年11月29日（金）
- 11 その他  
本研修は岩手県高次脳機能障がい支援普及事業（医師研修）と同時開催であること  
岩手県医師会生涯教育講座受講1.5単位を取得予定であること
- 12 問い合わせ先  
いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当（担当：大江・上田）  
〒020-0503 岩手県紫町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

**岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業  
高次脳機能障がい研修会（医師及びコメディカル対象）  
ご案内**

◎主催 いわてリハビリテーションセンター ◎共催 岩手高次脳機能障害研究会 ◎後援 岩手県医師会

◆特別講演◆  
**社会的行動障害の理解と対応  
原因を考えてみる**

◆講師◆  
京都大学付属病院 精神科・神経科  
講師 **上田 敬太 先生**

◆日時◆  
令和元年**12月9日**  
19:00～20:50(受付 18:30～)

◆場所◆  
岩手教育会館 多目的ホール  
盛岡市大通1-1-16 Tel 019-623-3301

申込〆切 11/29 参加費 無料

◆対象◆  
県内の脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の  
医師及び医療従事者

◆その他◆  
本研修では岩手県医師会生涯教育講座受講1.5単位を取得予定です

◆お問い合わせ◆ いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障がい担当  
岩手県紫町七ツ森16-243 TEL 019-692-5800 FAX 019-692-5807



高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象） アンケート結果

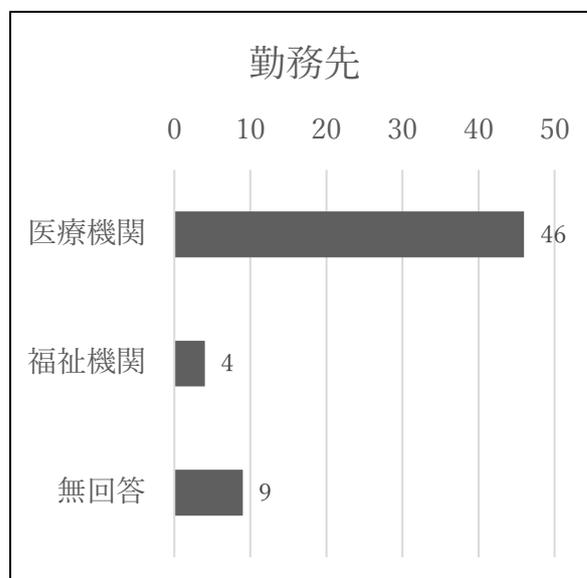
開催日：令和元年12月9日（月）

場 所：岩手教育会館

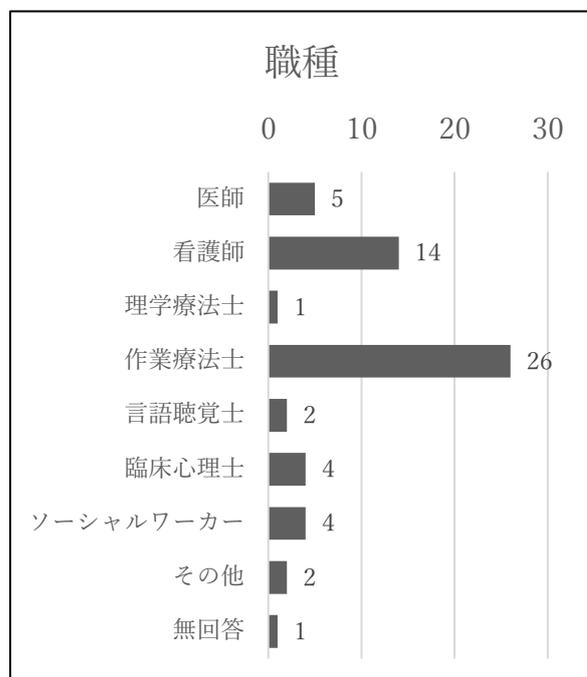
参加者：67名 回収数：59 回収率：88%

Q1 回答者属性

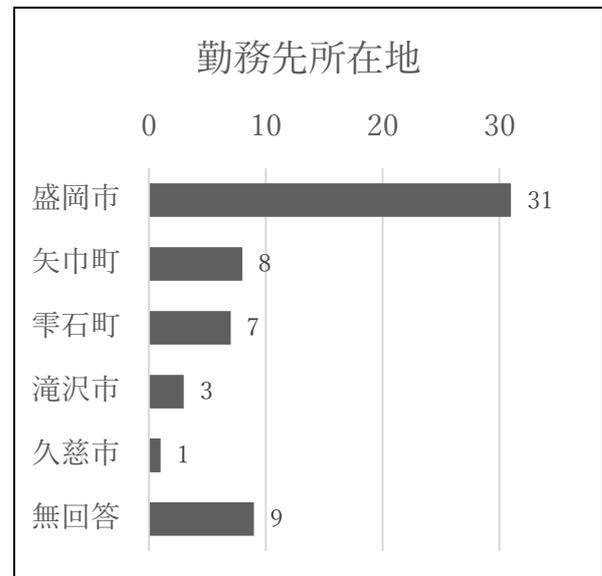
勤務先	回答数
医療機関	46
教育機関	0
行政機関	0
福祉機関	4
その他	0
無回答	9
合計	59



職種	回答数
医師	5
看護師	14
理学療法士	1
作業療法士	26
言語聴覚士	2
臨床心理士	4
ソーシャルワーカー	4
その他	2
無回答	1
合計	59

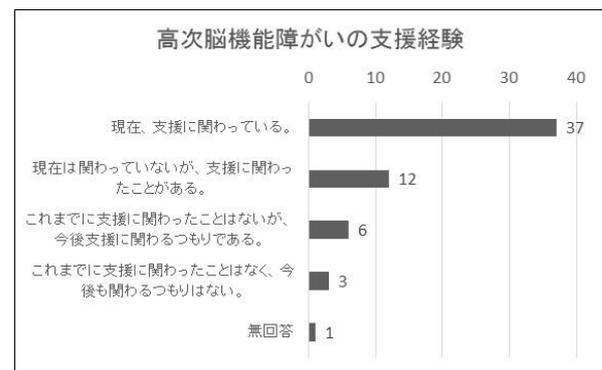


所在地	回答数
盛岡市	31
矢巾町	8
雫石町	7
滝沢市	3
久慈市	1
無回答	9
合計	59



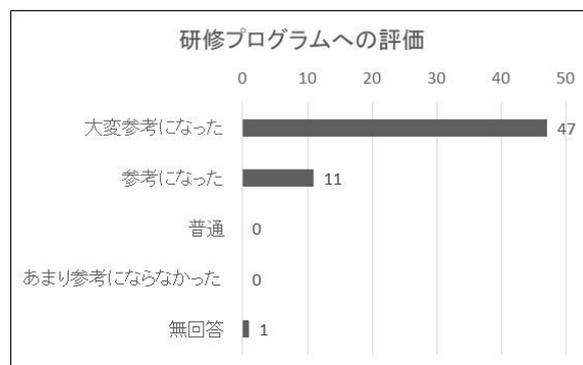
## Q2 高次脳機能障がいの支援経験

支援経験	回答数
現在、支援に関わっている。	37
現在は関わっていないが、支援に関わったことがある。	12
これまでに支援に関わったことはないが、今後支援に関わるつもりである。	6
これまでに支援に関わったことはなく、今後も関わるつもりはない。	3
無回答	1
合計	59



### Q3 研修のプログラムについて

評価	回答数
大変参考になった	47
参考になった	11
普通	0
あまり参考にならなかった	0
無回答	1
合計	59



#### 【意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと】

・病識の欠如、うつとアパシーの違い等理解が整理されました。話のスピードが全体的に速く、難しく感じました。

・症例を交えての内容で、イメージが付きやすかったです。

ただ、高次脳機能については中々難しい印象があり、多々研修会に参加してもいざ実施するとなると上手いかないとも感じています。今回のご講演内容を一つの知識として臨床につなげていきたいです。有難うございました。

・臨床でよくみられる症状がどのような原因により起きているのか、評価の支援を知ることができた。こちらが困っている症状が、脳損傷によるものだとということと、当事者にもきちんと説明しようと思った。よくみる症状を、整理して理解することができた。

・病識ない人の症状理解の進め方

・少し難しかったが、なんとなく理解できた

・具体例が詳しく素晴らしかった

・とても分かりやすく、実際の症例に当てはめて聞くことができ良かったです。

・大変貴重な講演ありがとうございました。

・Dr からの視点から各チーム（職種）に期待すること

・高次脳機能障害をもつ患者に対し、私自身も対応を迷うことがあったので、今後参考にしようと思います。

・文字が多くて少し読みづらかった。

・高齢者の認知症や脳血管障害についても、ただ診断名を共有するのではなく、どの場所で、どんな重症度で、後遺症についてどう医師から本人・家族が説明をされているのか、それを理解しているのかのアセスメントをすることの重要性を再確認できた。

・病識、又、問題の直面化が必要との説明に常に感じていたことを裏付けていただいたような思いでした。出来ること探しを共に頑張りたいと思います。

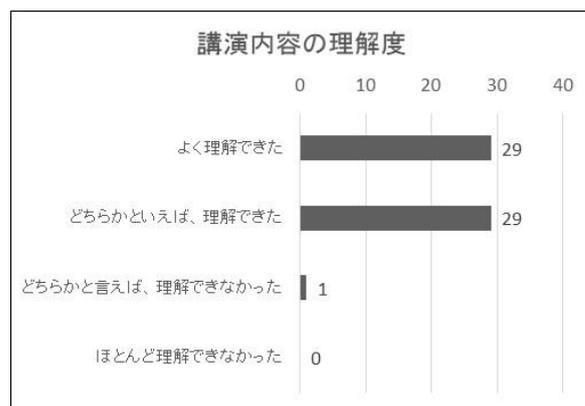
・初めて知ることがたくさんあり、今後働いていくうえで、とても参考になった。

・社会的行動障害には原因がいくつかあり、しっかり評価して対応することが重要だと分かりました。復職希望のある方への支援が難しく、充分できていないため、回復期での取り組みや退院後の支援の流れについてもっと知りたいと思いました。

- ・他職種や外部の職種（就職先）との関わり方、どのような情報や話し合いをしていけばよいか。
- ・症例が多く、わかりやすかったです。評価法が少ない症状のため、その点をもう少し詳しく知りたいと思いました。
- ・病識の欠如によるリハビリへのモチベーション低下、強い自宅 ENT・復職希望の方に対する対応の難しさがああり、さらに詳しく病識低下の部分をお聞きしたいと思いました。
- ・詳しくお話をしていただいたので、とても参考になりました。業務にいかしていけるようになりたいと思います。
- ・実際の症例についての例も沢山挙げて頂いたのも、とても障害を理解する点で理解しやすかったです。原因についてちゃんと理解しておくことで、正しい関わり方が出来るということをお勉強することが出来ました。
- ・内容全体的にとっても興味深い話でした。
- ・脳画像や過去の事例に基づいた説明がとて分り易かったです。
- ・症状に対しての対応をもう少し詳しくお聞きできればと思いました。
- ・対応方法を伺って自分の息子の現在の症状や対応が、まちがっていなかったと思えた。
- ・スライドが分かりやすい。症例（実例）があり、理解しやすい内容だった。
- ・今関わっている対象者と重なる症状があったため病巣部位～対応方法まで勉強になりました。
- ・嗅覚脱失の話をした際、例として「若い女性が香水を楽しむことができない」との話もあり、患者を1人の人として生活者として寄り添ってられるのだなと感じた部分でした。今回の講演を明日の仕事に活かしたいと思いました。
- ・原因の考え方、対策の具体的な内容がよく理解できました。大変具体的にお話いただき、思い当たる症例とその対応策について考えることが出来ました。

#### Q4 講演内容の理解について

講演内容の理解度	回答数
よく理解できた	29
どちらかといえば、理解できた	29
どちらかといえば、理解できなかった	1
ほとんど理解できなかった	0
無回答	0
合計	59



## Q5 高次脳機能障がい研修会のテーマ、内容、講師、場所、開催時期等の要望

- ・貴重なご講演ありがとうございました。
- ・岩手県内における就労支援の実際。支援内容の紹介。
- ・半側空間無視
- ・岩手県の支援体制や事業所の詳細について知りたい
- ・勤務がある日（日勤）は19時からだと参加しやすいです。
- ・自動車運転に関する研修会を希望します。
- ・事例に対して、どのようなケアを実践したか、具体的に知りたい。
- ・時間としては、仕事終わりでも参加できるのでありがたいです。場所としても、盛岡周辺で参加しやすかったです。
- ・ENT後の実際と、その支援はどのようなものがあるか（特に行政・福祉）
- ・教育会館の会場もとても良い会場で使用しやすかったです。今後は、就労支援についても勉強してみたいです。
- ・運転支援の評価と支援、文献など、他分野（医師）との連携した事例があれば
- ・認知症の理解とアプローチ
- ・次回もぜひ参加したいです！
- ・若い方の復職支援で悩むことが多いです。復職の可否の判断に役立つ神経心理学的検査やリハビリの内容、社会的資源の活用などについて知りたいです。（実際に就労場所や場面を見学したり出来れば良いのですが、限界がありなかなか深く関われない状況です。）可能ならば熱心に支援を行われている施設さんの取り組みを具体的に知りたいです。若い方が退院された後も経時的に高次脳機能が回復する方も多く、見とおしを持つのが難しく思います。

### iii) 特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会

**令和元年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業**  
「特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会」開催要綱

**1 目的**  
「高次脳機能障がい」は外見からは分かりにくく本人も自覚し難いという特徴から、支援の対象として認識されることが少なくありません。しかし、適切な支援がなされないで自信を失ったり、学習で十分な能力を発揮出来なかつたり、不登校に陥るなど二次的な問題が現れることもあるため、出来るだけ早期から適切な支援を受けることが必要とされています。  
本研修会はこれらの障がいの特性とその対応について理解を深めるとともに、地域の支援者の方々に支援の実践について理解していただき、今後の連携を図っていくことを目的に開催します。

**2 主催**  
公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

**3 後援**  
岩手県教育委員会

**4 日時**  
令和2年1月10日(金) 13:00~16:30

**5 会場**  
岩手県自治会館 3階 第2会議室 〒020-8510 盛岡市山王町4-1 TEL: 019-622-6171

**6 対象**  
(1) 教職員及び学校・教育関係者  
(2) 病院・福祉施設職員  
(3) 相談支援事業所及び居宅介護支援事業所職員  
(4) 市町村障害福祉担当者及び保健師等

**7 日程及び内容**

時間	内容	担当
13:00~13:05	開会・挨拶	
13:05~14:15	講義 「小児の高次脳機能障がいとその支援について」	中央大学講師 元横浜総合リハビリテーションセンター 臨床心理士・公認心理士 山口 加代子 氏
14:15~14:25	休憩	
14:25~16:25	グループワーク 「高次脳機能障がい児童・生徒の復学支援について」	いわてリハビリテーションセンター 支援コーディネーター
16:30	閉会	

**8 参加費**  
研修参加費 ……………… 無料

**9 参加申込み**  
別紙の参加申込書により、**12月27日(金)までに**下記あてに FAX 又は郵送にてお申し込み下さい。  
いわてリハビリテーションセンター(担当:上田・大江)  
〒020-8503 岩手県岩手市七ツ森16-243 TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807

**岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業**  
**特別な配慮を必要とする児童生徒を**  
**理解・支援していくための研修会**

高次脳機能障害は子どもにも起こりうる障害です。外見からはわかりにくく、本人は自覚していないこともあるため、適切な支援を受けられない場合があります。本研修では、高次脳機能障がいの特性とその対応について理解を深めることを目的としています。

●日 時●  
令和2年  
1月10日(金) 13:00~16:30  
(受付 12:30~)

**会場**  
岩手県自治会館 第2会議室  
盛岡市山王町4-1  
TEL 019-622-6171

**講師**  
中央大学講師  
元横浜市総合リハビリテーションセンター  
臨床心理士・公認心理士  
山口 加代子 先生

**対象**  
1. 教職員及び学校・教育関係者  
2. 病院・福祉施設職員  
3. 相談支援事業所及び居宅介護支援事業所職員  
4. 市町村障がい福祉担当者及び保健師等

**募集人数**  
100名

**受講料**  
無料

●お問い合わせ●  
いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい担当 大江・上田  
岩手県岩手市七ツ森16-243  
TEL: 019-692-5800 FAX: 019-692-5807  
Mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp



特別な配慮を必要とする児童生徒を理解・支援していくための研修会 アンケート結果

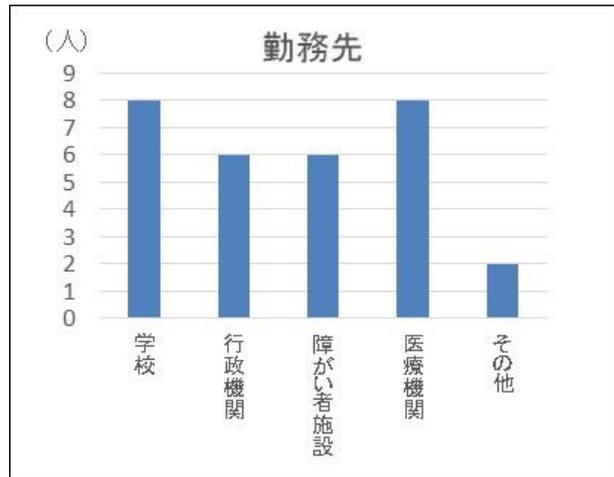
開催日：令和2年1月10日（金）

場 所：岩手県自治会館

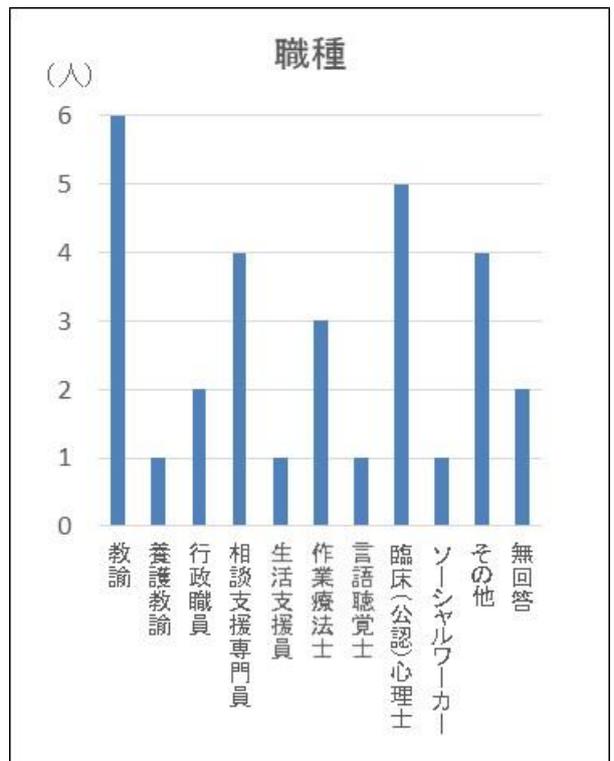
参加者：32名 回収数：30 回収率：94%

Q1 回答者属性

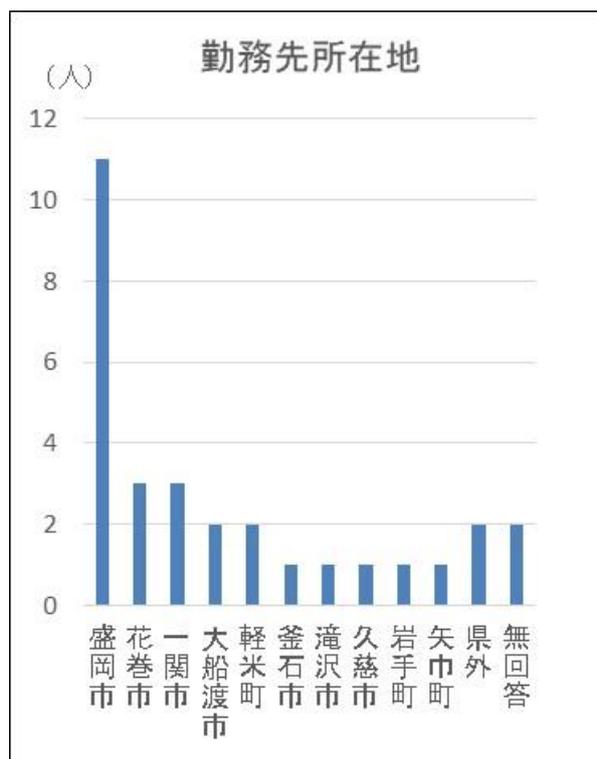
勤務先	回答数
学校	8
行政機関	6
障がい者施設	6
医療機関	8
その他	2
無回答	0
合計	30



職種	回答数
教諭	6
養護教諭	1
行政職員	2
相談支援専門員	4
生活支援員	1
作業療法士	3
言語聴覚士	1
臨床(公認)心理士	5
ソーシャルワーカー	1
その他	4
無回答	2
合計	30

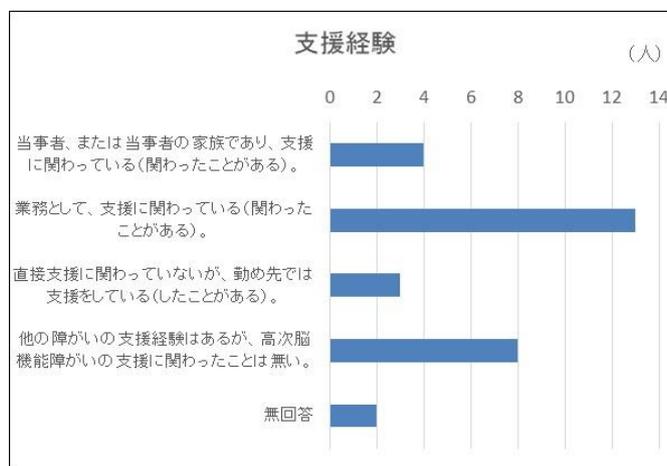


所在地	回答数
盛岡市	11
花巻市	3
一関市	3
大船渡市	2
軽米町	2
釜石市	1
滝沢市	1
久慈市	1
岩手町	1
矢巾町	1
県外	2
無回答	2
合計	30



## Q2 高次脳機能障がいの支援経験

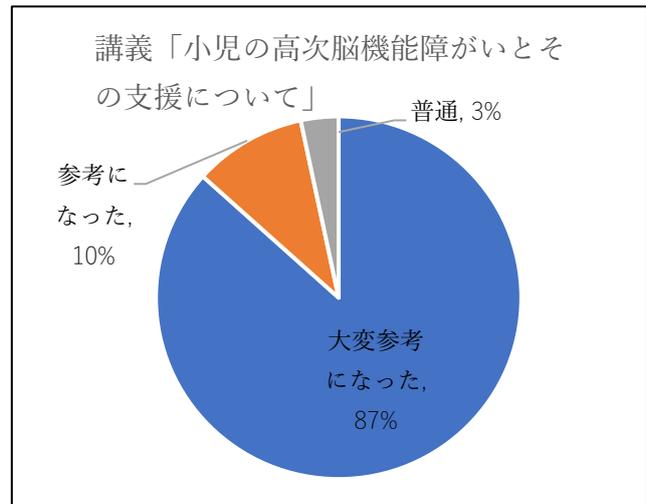
支援経験	回答数
当事者、または当事者の家族であり、支援に関わっている(関わったことがある)。	4
業務として、支援に関わっている(関わったことがある)。	13
直接支援に関わっていないが、勤め先では支援をしている(したことがある)。	3
他の障がいの支援経験はあるが、高次脳機能障がいの支援に関わったことは無い。	8
無回答	2
合計	30



### Q3 研修のプログラムについて

#### ○講義「小児の高次脳機能障がいとその支援について」

評価	回答数
大変参考になった	26
参考になった	3
普通	1
あまり参考にならなかった	0
無回答	0
合計	30

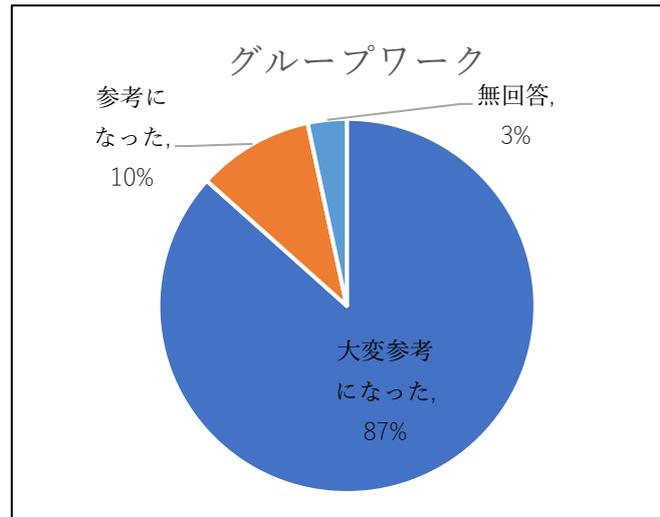


#### 【意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと】

- ・発達障害と高次脳機能障害との関係。発達障害の子が脳にダメージ（交通事故）を受けたら、高次脳機能障がいになることはないのか。
- ・発症が多い年代と、どうしてそういったことが起きやすいのか（7歳、10歳、16歳に脳外傷多いことについて）、がん治療後にも高次脳機能障がい出やすい等、新しい知見が得られたのがよかった。
- ・高次脳機能障がいがどのようなものであるかがよくわかりました。最近よくとりあげられる発達障がいと似た症状ということでしたが、対処の仕方の具体例をお伺いしたかったです。
- ・状態像や将来への見通し、支援の具体的な内容が分かり勉強になった。
- ・小児の高次脳機能障害について、大人との違いなど知ることができた。
- ・高次脳について詳しく知ることが出来た。何より、精神障がいであることに大変興味をもった。
- ・社会的行動障害に対する具体的な支援方法について聞きたかった。
- ・大変わかりやすい講義でした。参考文献も紹介されており、さらに学習を深めることができありがたかったです。
- ・とてもわかりやすかったです。
- ・高次脳機能障がいというものが、全くわからなかったのでもって参考になりました。ありがとうございました。
- ・勘違いしている点もあったので、改めて知識を整理することができた。事例をもう少し聞きたかった。
- ・発達障がいとの違いなど、知りたいことが聞けた。
- ・とても勉強になりました。実際に役に立つ内容でした。ありがとうございました。
- ・高次脳の知識の再確認だけでなく、新しい情報も聴くことができとても良かったです。先生のお話も全体でとてもわかりやすい表現でお話いただいたので、より理解することができました。今後も研究で、新しいことが分かっていくと思うので、またぜひご講義いただきたいです。

○グループワーク「高次脳機能障がい児童・生徒の復学支援について」

評価	回答数
大変参考になった	26
参考になった	3
普通	0
あまり参考にならなかった	0
無回答	1
合計	30

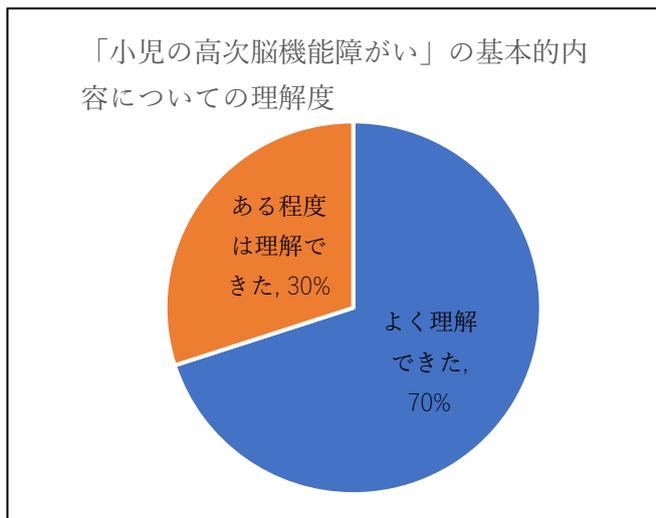


【意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと】

- ・様々な機関の方とワークに取りくめたことで、新たな視点が得られた。
- ・様々な御意見をお伺いして、違う角度からのとらえ方を知り、勉強になりました。又、現在現場がかかえている問題の解決の糸口をいただいたと思います。
- ・コーディネート、ケア会議の大切さ、グループワークでみえてきました。
- ・多職種での意見交流がとても参考になった。
- ・多職種で意見を交換することができてよかった。
- ・事例をもとにグループワークできて、とてもわかりやすかった。いろいろな立場の方と検討できたのがよかった。
- ・色々な職種、立場の方によるグループワークであったため、非常に参考になりました。
- ・岩手の現状も詳しく聞いてみたいと思いました。
- ・様々な立場の人々が集まることで、多角的な意見を聞け、大変よかった。回覧資料がもう少し人数に見合うとなおよい。
- ・教諭の方や医療機関で働いている方と同じグループになり、いろいろな意見を聞くことができ、勉強になりました。
- ・いろんな職種の方と現実にあったことを話し合うことができて、とても勉強になった。
- ・校種は違うが、同じ学校現場での事故であり、対応をいろんな業種の方と考える良い機会であった。
- ・学校での事故なので、学校と親との関係が気になりました。また、セカンドインパクトのことも気になりました。
- ・多くの職種と話ができただことで、長期的な連携ができることが参考になりました。
- ・学校でやらないといけないことが多くあると、改めて気づかされました。
- ・実際どのように支援されているのか具体的にみることでよかったのでとても良かった。

Q4 「小児の高次脳機能障がい」の基本的な内容の理解について

講演内容の理解度	回答数
よく理解できた	21
ある程度は理解できた	9
どちらかと言えば、理解できなかった	0
ほとんど理解できなかった	0
無回答	0
合計	30



Q5 高次脳機能障がい研修会のテーマ、内容、講師、場所、開催時期等の要望

- ・学校現場の理解が大事であるとわかりましたので、回数を多くするか、あるいは高教研、保健部会などで研修会があるといいと思います。
- ・雪がない時期だと嬉しいです。
- ・事例検討会をお願いしました。
- ・とても良い研修でした。構成メンバーが良かった。

iv) ナイスハートバザール in いわて

イベント名：2019 ナイスハートバザール in いわて

日時：令和元年 11 月 16 日（土）10：00～19：00

11 月 17 日（日） 9：00～18：00

会場：イオンモール盛岡 1 階 共用通路内

主催：社会福祉法人 岩手県社会福祉協議会 障がい者福祉協議会・協働受注センター

共催：認定 NPO 法人 難民を助ける会

後援：岩手県

内容：障がい者就労支援事業所の製品販売、集客イベントの実施

当センターの実施内容：

- ・ イベント会場の 1 スペースにて、高次脳機能障がいカルタの体験会の実施
- ・ 高次脳機能障がいパンフレット、普及啓発チラシの配布
- ・ ヘルプマークとチラシの掲示

参加者：いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援コーディネーター

11 月 16 日は、いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴの代表 堀間様、就労継続支援 B 型事業所（高次脳機能障害）生生学舎アダージョのご利用者様、ご家族様に運営にご協力頂きました。



## 5 当事者交流イベント

高次脳機能障がい者支援普及事業  
いわてコウジ村フェスティバル

### じゃじゃじゃ交流会 2019

日時

令和元年10月5日（土）  
10：30～15：00（10：00～受付開始）  
※自己紹介のためのカードをご記入頂きますので、時間に余裕を持っ  
てお越しください。

場所

シートピアなあと 研修ホール・体験学習室  
岩手県宮古市臨海通 1-20  
TEL 0193-71-3100  
\*会場までは各自でお越しください  
\*タオルや着替えが必要な方は各自でお持ちください

内容

- ・自己紹介ゲーム
- ・昼食（お弁当と飲み物が出ます）
- ・ポッチャ（ニュースポーツで楽しみましょう！）

参加費

1000円（お弁当代金）



はじめての方も  
一緒に楽しみましょう！

定員

60名

参加対象

高次脳機能障がい者及び家族  
医療、福祉、行政関係者等高次脳機能障がいの支援者、県民

主催 いわてリハビリテーションセンター、いわて脳外傷友の会イーハーツ  
お申込・お問合せ TEL:019-692-5800 FAX:019-692-5807  
E-mail: koujinou-shien-reha@irc.or.jp

**締め切り 令和元年9月17日(火)** 高次脳機能障がい交流会担当(大江・上田)

キャンセルの際は9/30までにご連絡ください。それ以降の場合は参加費を頂戴する場合がございます。

申込用紙は裏面へ



令和元年度当事者企画イベント ジャジャジャ交流会 2019 アンケート結果

日時：令和元年10月5日(土) 10:30~15:00

場所：シートピアなあと(宮古市)

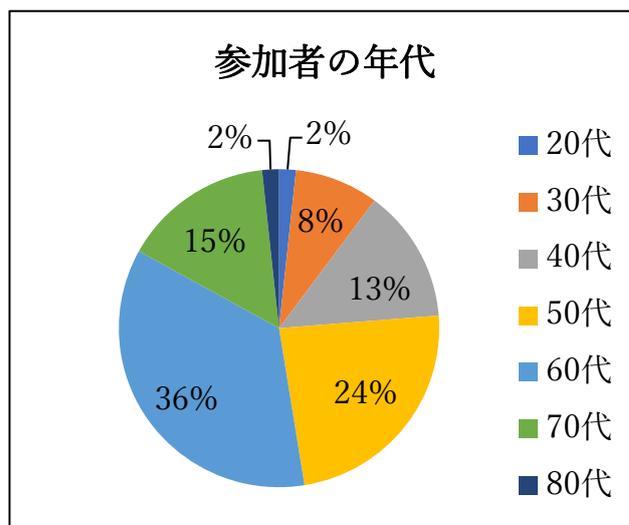
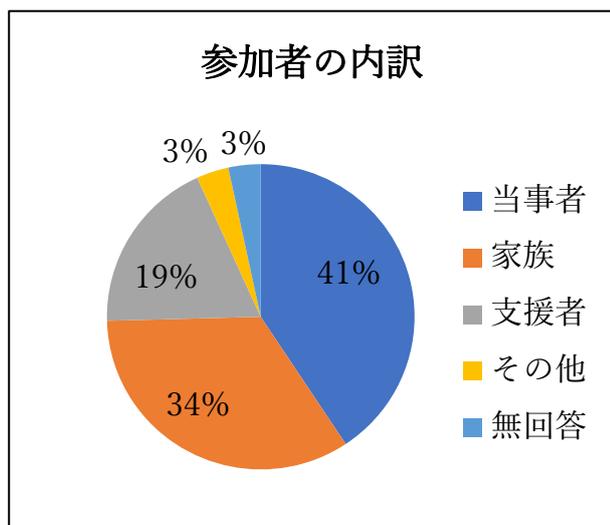
参加者：62名(スタッフ等除く) 回収数：59 回収率：95%

○参加者の内訳(単位：人)

当事者	家族	支援者	その他	無回答
24	20	11	2	2

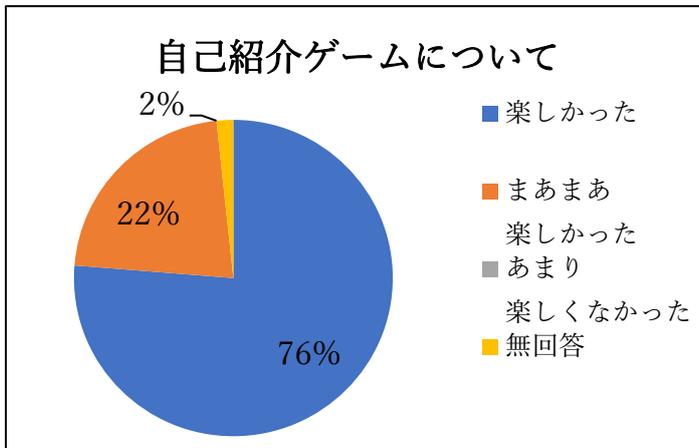
○参加者の年代(単位：人)

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代
1	5	8	14	21	9	1



○「自己紹介ゲーム」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
45	13	0	1



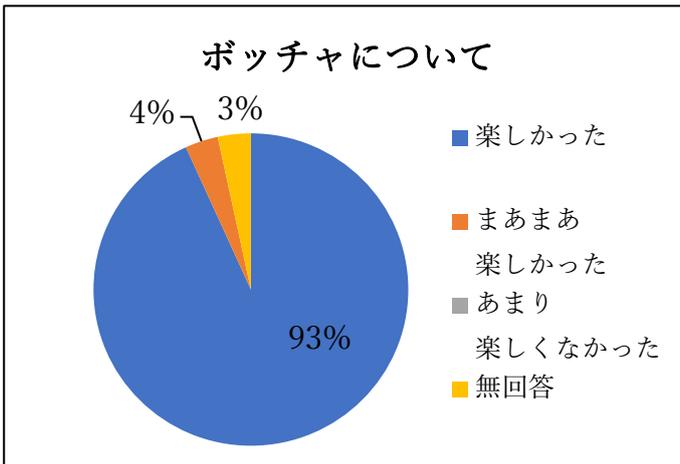
【感想・印象に残った場面・改善点など】

- ・皆の情報が印象に残り感動しました。
- ・昨年会った人と、また再会できた事がうれしかったです。
- ・話せないのが悔しい。
- ・昼食おいしかった。
- ・初めてのボッチャでした。
- ・沢山の参加者があり全体的に遭遇できない方も多く残念だったところもある。
- ・新たな人達と出会い、また以前に会った方とも出会い楽しかったです。
- ・今回は昨年より慣れた事、顔見知りの方も少しつこんだ話ができただ事。
- ・他の人の色々な話を聞いて良かったです。ニックネームが皆かわいかった。
- ・とても話はずみまして、おもしろかったです。(特に AKB の話)
- ・初対面の方が隣りどうしなので、どういう話をしたら良いのかがわからないので名前の所に、こんな人とか書いてあると良いと思う。
- ・毎回楽しくお話する方々からの情報で考えさせられる事もあり、とても良かったです。
- ・みんな楽しそうにしていたから。
- ・別のグループとの交流が楽しかった。
- ・いつもやっているもので、たまには違うのをやってみたいです。
- ・移動がもう一回くらいあっても良かったかなと思いました。
- ・初めての人ばかりで、あまりしゃべれなかった。
- ・アンカーの佐藤さんの頑張りで勝利。
- ・沿岸の方々が鮭(荒巻)の食べ方、いくらの処理の仕方を熱く語って教えて下さったこと。
- ・沿岸の方たちと、お話もでき楽しかった。
- ・おもしろかった。
- ・これまでの体験を教えて下さる方がいて色々な思いを共有できました。
- ・ゲーム
- ・途中での移動回数がわからなく、時間配分に困った。時間内でしたら、もう一度移動があっても良かったのでは？

- ・紹介カードの内容を前もって考えていた方が進めやすいかもしれないと思いました。
- ・色々な人とお話しできた事が楽しかった。
- ・2回目の移動、まあまあ的人数だったので全シャッフルでも良かったのかと・・・

○「ボッチャ」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ 楽しかった	あまり 楽しくなかった	無回答
55	2	0	2

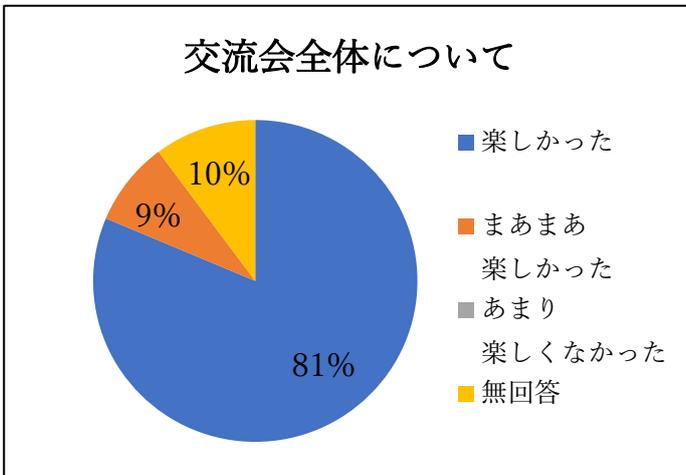


【感想・印象に残った場面・改善点など】

- ・身体を動かし笑顔で勝負。とてもおもしろかったです。日頃のつかれもとれ又楽しみたいと思います。
- ・すごくもりあがり、たのしかった
- ・楽しい
- ・心と体がほぐれた
- ・ゲームを長くしてほしかった
- ・とにかく他の人と交流して、話しが出来、聞ける事、こういう場がある事に意味がある。価値がある。企画運営大変でしょうが、これからもよろしくお願いします。強くうっただけでない、アシストがあるから主役となれる。だから自分達はめぐまれている。母親にかんしゃしないと、苦勞ばかりかけてたよ！なにもしてやれなかった。
- ・白熱するところがおもしろかった。またやってほしい。
- ・県外の方にも出会えてよかったです。
- ・楽し過ぎました。同じメンバーで会える日を楽しみにしています。
- ・こんなに楽しいスポーツがあったのかと再確認しました。
- ・みんなで力を合わせて3勝しました。感激です。
- ・皆さん、日ごろのうっぷんをほらしたみたいで楽しそうでした。よかった。
- ・ルールが難しく、かなり高次脳機能を使いました・・・。
- ・ボールの特徴等、障がいを感じず皆わかりやすく参加する事ができるスポーツでたのしかった。
- ・卓球バレーは楽しかったです。
- ・勝敗に関係無く、声をかけ合ってプレーが出来て楽しかったです。
- ・勝ち負けでなく、みんなで楽しんでた印象だった。拍手し合っていたことも印象的だった。

○「交流会全体」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
48	5	0	6



【感想・次回の要望など】

- ・大船渡でもやれたらな・・・
- ・来年は大船渡にしてほしいです。
- ・また来ます。
- ・春頃が良い。
- ・宮古の人、大変ご苦労様でした。
- ・みなさん楽しくやって良かった。
- ・ボッチャ大会がやりたい。
- ・楽しかったけれど時間がちょっと長かったかなと思った。
- ・交流の中で色々話せて良かった。宮古は遠かったが参加できて良かった。
- ・スタッフ、ボランティア、家族会の皆さん大変ありがとうございました。
- ・いろいろな人達の状況や話を聞けて良かったと思う。
- ・視覚障害の人も楽しめて良かった。来て良かったです。年齢を忘れるくらい、はしゃいで楽しめた。
- ・ボッチャは思ったよりも疲れてしまうくらい楽しめました。
- ・皆で体を動かすゲームなどは盛り上がるので楽しかった。
- ・今後も岩手の高次脳の県大会として続けてほしい。
- ・震災後初めて来た宮古でした。聞きたいことを他の家族の方に聞いて参考にしたいと思いましたが、もっともっと色々な人の話を聞く時間があればもっと良かったです。
- ・場所はどこでも良いです。ぜひまた交流会をしてください。楽しみにまっています。
- ・次回も是非参加させて頂きたいので、お知らせをお待ちします。
- ・時季的にも良いですし、1年に1回ではありますが元気な皆の姿を見れて良かったです。色々準備して下さったスタッフの皆様ありがとうございました。
- ・気候もちょうど良く、良い時期だったと思います。欲を言えばせっかく海側に来たので、ちなんだ物を食べたかったです。
- ・震災後初めて宮古に来ました。とても景色が良かったです。(場所)  
あまり暑くもない時期であって服選びに苦戦した(時期)

食事もおいしかったし皆やさしい人が多く、なかなか溶け込めなかったけれどボッチャで色々お話できて良かった（内容）

- ・内陸でもやって下さい。海を見れて良かったです。ボッチャ楽しかったです。
- ・初対面の方でも仲良くゲームできました。次回もよろしくお願いします。
- ・午後のボッチャ楽しかったが疲れてしまう人が出てしまい休むところが欲しかったかも。研修室が暑かった。ボランティアの方々ハセスタッフの方々ありがとうございました。動きがすばらしかったです。
- ・来年もあつたら参加したいと思います。企画をする方々は大変だと思いますが、よろしくお願いします。皆様ご苦勞様でした。ありがとうございました。
- ・時期は例年通りで良いかと思います。午前の企画が少し変わると毎年の参加者が楽しめるかと思いました。
- ・時間が、あつという間に終わった。
- ・皆さん忙しいところ、お世話して下さいありがとうございました。
- ・同じ悩みの人に出会い気軽に交流ができ気分転換になり有意義な時を過ごせてありがとうございます。当事者の本人も大喜びしていました。こういう機会を作っていただきまして感謝しております。来年も皆様にお会い出来る事を楽しみにしています。
- ・人数に関係なくできるものだなあと思いました。多くても少なくとも交流会は大成功です。お世話になりありがとうございました。
- ・気分転換になれるので毎回楽しみにしています。
- ・盛岡以外でやるのも良いなと思いました。
- ・盛岡だけでなく県内各地を会場にすると、それぞれの方が参加しやすく良いと思いました。
- ・当事者の人との話を聞いたことと、スタッフの人の対応が良かったと思いました。
- ・初参加でしたが楽しいひと時を過ごせて良かったです。
- ・良い状態で楽しみました。
- ・とても楽しかったです。

# しずくいしの風

## 高次脳機能障がいメールニュース

第48号 <2020年1月 発行>

いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障がい者支援普及事業

目次

1. 高次脳機能障がいかるた
2. じゃじゃじゃ交流会 2019
3. 編集後記

冬といえばみかんですね。ふつうに食べてもおいしいですが、「焼きみかん」をご存知でしょうか？みかみを皮のまま焼いて食べるとおいしいそうですよ。山口県には鍋に焼きみかんを入れた「みかん鍋」という料理もあるそうです。



### 1. 高次脳機能障がいかるた

今月号は「高次脳機能障がいかるた」を紹介します。かるたはどのような経緯で作られることになったのか、かるたの製作担当者にお話を聞いてみました。

―作成のきっかけは？

「高次脳機能障がい」をたくさんの方々に知っていただくための支援普及のツールとして、それから家族会・交流会で楽しめるネタとして、かつ脳トレにも使えるもので、何かないかと考え始めたのがきっかけです。

―こだわった点は？

岩手県高次脳機能障がい者支援ワーキンググループ会議のメンバーやいわて高次脳機能障がい者会イーハトーヴの方々にご協力をいただき「当事者の言葉」をそのまま読み句にしたことです。当事者の素直な想いが句に表れていると思います。またそれを分かりやすいように一言メモで解説を加えています。

―今後の活用予定は？

先日前潟イオンで開催されたナイスハートバザールでお披露目を行いました。「2分間で15枚以上とれるか？」たくさんの方々にかるた早どりにチャレンジしていただきました。とくに子供たちに好評で用意していた景品が時間前になくなってしまいうほどでした。今後は各地域の支援拠点機関に配布し、家族会・交流会等で使っていただきます。また地域支援拠点機関ではかるたの貸出しも行う予定です。どうぞお楽しみに！



## 2. じゃじゃじゃ交流会 2019

じゃじゃじゃ交流会2019が10月5日(土)に「道の駅 みやこ シートピアなあと」で行われました。今回は宮古での開催となりましたが、沿岸地域に限らず、内陸、県南と遠くから多くの当事者、家族、支援者の方々が参加されました。

今回は自己紹介ゲーム、ボッチャを行いました。自己紹介ゲームでは、「好きなこと」「最近うれしかったこと」や「もしも魔法が使えたら・・・」など様々なテーマで盛り上がりました。

ボッチャはどれだけボールを的に近づけることができるかを競うスポーツです。誰でも楽しむことができるようにとヨーロッパで考案されました。今回はじめてやったという方が多いなか接戦が繰り広げられていました。初めは初対面で緊張している方もいましたが、だんだんとチームのメンバー同士で「やったね!」「がんばれ」という掛け声も多く聞こえてくるようになり、交流を深めることができました。

多くの方から、また開催してほしいとのお声を頂きました。来年度も多くの方にご参加頂けるよう企画して参ります!



## 3. 編集後記

2020年、ついに東京オリンピックの年ですね。先日、聖火リレーの日程が発表されました。岩手県は6月17日~19日の3日間に行うそうです。『あまちゃん』に出演していた女優の「のん」さんもリレーに参加するそうで、楽しみです!

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当(吉田、村上、後藤、大江、村田)  
アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)

### 目次

- 1. 生生学舎アダージョについて
- 2. 盛岡圏域の地域支援拠点機関について
- 3. 編集後記

### 【生生学舎アダージョ】

〒020-0816

盛岡市中野一丁目1-26

TEL : 019-652-1137

FAX : 019-652-1138

E-MAIL :

koujinou\_iwate@yahoo.co.jp



## 1. 生生学舎アダージョについて

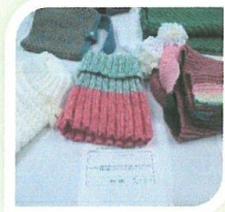
今回は、NPO 法人 いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴが運営する就労継続支援B型事業所「生生学舎アダージョ」の活動内容をご紹介します。

### 生生学舎アダージョとは？

高次脳機能障害により、元の学校や職場に戻ることが困難になった方々の働く場、これから社会復帰、復学、復職を目指す方々の訓練の場として、平成24年に開設された就労継続支援B型事業所です。また、平成29年4月からは、自立訓練（生活訓練）の事業が開始しました。

「アダージョ」は音楽用語 adagio が由来です。「ゆとり」「くつろぎ」「余裕」という意味から、「心地よさ」「やさしさ」「ゆったり」としたテンポの中で生き生きと修練してほしいという願いが込められています。

作業の内容は、洋菓子・和菓子、食品加工品の製造、手工芸品の製造、給食調理、商品の訪問販売などさまざまです。



アダージョは、同じ障害のある仲間と思いを共有できる、そして作業によって役割を持つことができる居場所として、たくさんの高次脳機能障害の方を受け入れています。

利用者さんの中には、多くの方に高次脳機能障害を知ってもらいたいという気持ちから、自分の経験や思いを講演会や研修会でお話した方、得意なことを活かして作品の個展を開いた方、もっと働けるようになりたいと次のステップを目指している方など、それぞれが新たな希望をもって活動に取り組まれています。



## 2. 盛岡圏域の地域支援拠点機関について

盛岡圏域は、盛岡市、滝沢市、雫石町、八幡平市、岩手町、葛巻町、矢巾町、紫波町の8市町で構成されています。

NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴは、平成30年度から岩手県の委託を受けて盛岡圏域の地域支援拠点機関の役割を担っています。他圏域の地域支援拠点機関は主に相談支援事業所が担っており、家族会が地域の拠点機関になるのは、岩手県で初めてのことです。地域支援拠点機関では、地域における高次脳機能障害の相談支援対応、支援普及活動を行っています。もちろん家族会で対応できない場合もありますので、圏域内の専門の機関のご協力を頂いています。

今年度盛岡圏域は8月に連絡会を実施し、委員の皆さんと相談の上、高次脳機能障害の支援普及活動のためのポスターと連絡カードを作成しました。これらは、病院やクリニック、福祉事業所にお配りしておりますので、活用頂ければと思います。



またイーハトーヴでは、毎月1回程度、家族教室を開催しております。お茶を飲みながら、お昼ご飯を一緒に食べながら、辛かった話、楽しい話、嬉しい話をみんなで共有しています。なお、支援者の方の参加も大歓迎です。令和2年度の予定は決まり次第、メールニュースでもご案内させていただきます。

## 3. 編集後記

春が近づき、暖かさを感じるようになりましたね。この年度末は、新型コロナウイルスの影響で、家族教室や会議などの集まりを中止したところも多くありました。早く収束し、またみんなで楽しく集まる機会を持てることを祈っています。

ご意見ご感想はこちらまで メールニュース担当（吉田、村上、後藤、村田、大江）  
アドレス [koujinou-shien-reha@irc.or.jp](mailto:koujinou-shien-reha@irc.or.jp)

## 7 高次脳機能障がいカルタ

### 1 名称

「高次脳機能障がいカルタ」

### 2 作成の目的

- ・レクを通して当事者及び家族、支援者が高次脳機能障がいについての理解を深める
- ・病院や福祉施設での訓練に使用する

### 3 規格、作成数、経費

規 格：絵札・読み札 各 46 枚／1セット、100×70mm、両面カラー、角丸加工

作成数：50 セット

経 費：岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業費

### 5 配布先

地域支援拠点機関及びいわて高次脳機能障がい者友の会イーハトーヴ（本部、支部）、県内回復期リハビリテーション病棟を有する病院





## 高次脳機能障がいカルタ 早見表



高次脳機能障がいカルタの読み札と、絵札に記載してある一言メモの一覧表です。

文字	読み札	一言メモ
あ	あくびは私の脳が疲れたサインです	あくびは疲れがたまったサインのひとつです。こまめに休憩しましょう。
い	意識して！注意して！そんなこと言われても壊れたんだよ俺の脳	症状として、自分で意識すること、注意すること自体が難しくなります。
う	生まれ変わった俺を受け入れてくれるイーハトーヴの仲間達	同じ経験をした仲間（当事者・家族会）だからこそわかることがあります。
え	えっ？初めて聞きますその話だからいつも新鮮です	記憶障害があると前に聞いた話でも初めて聞いたように感じる場合があります。
お	大人気ないと思うけどほめられるとついニンマリと	できないことを注意するより、できたことをほめるよう意識してみましょう。
か	カチンとくるんです その言い方が	言い方が命令口調や上から目線になっていないか、気をつけましょう。
き	今日もまた プライドを杖に颯爽と	その人が大切にしていることを尊重しながら関わりましょう。
く	くーっ！押さえられました怒りの感情を俺ってできる男かも	感情のコントロールが難しくなる人もいます。対応方法を考えてみましょう。
け	気怠いなあ 何故かそんな日が続く事もあります	疲労が溜まったり、意欲低下があると、調子が安定しないことがあります。
こ	ここは落ち着くなあ きっと分かってくれる仲間といるからだ	受け入れてくれる仲間の存在が安心につながります。
さ	さっきまでちゃんと覚えていた事は覚えていません	時間が経つと細かい内容を忘れてしまう時は、覚えておくための工夫をしてみましょう。
し	静かで安心できる環境でこそ 私の脳力フル回転！	賑やかな環境では集中できなくなることがあります。環境設定も大切です。
す	スッキリと冴えわたる脳内環境が欲しいのだ	見た目は元気でも頭の中がモヤモヤしていると感じる場合があります。
せ	切ないよ 悔しいよ あら又同じ話？と言われることが	何度も同じ話をしてしまう時もしっかり聞いてもらえると、話し手もすっきりします。
そ	そうだったんですね その言葉に救われます	その人の心の内の感情にしっかりと寄り添いましょう。

た	タイムマシンに乗ってあの頃に戻りたい	病気やケガをする前の自分と比較して悩んだり落ち込んだりすることがあります。
ち	ちゃんと着ているつもりが後ろ前	空間認知能力の低下により服の前後左右が分からなくなることがあります。
つ	冷たいその視線には敏感です	周囲の雰囲気や他人の視線を必要以上に気にしてしまうことがあります。
て	手と手 顔と顔みんな違う でもどこかで繋がっている	支えあう体制づくりがその人の安心感につながります。
と	とても大事なんです 成功体験が自信に繋がります	成功は自信に、自信は新たなチャレンジにつながっていきます。
な	何故かな？言葉がここまで出そうで出て来ない	焦らせないようにじっくり本人の言葉を待つと言葉が出てくることもあります。
に	脳トレ 認トレ 頑張れば俺の脳みそは復活するかな？	以前の自分に戻りたいという気持ちが強く残っている方もいます。
ぬ	濡れ衣です 俺は真剣にやってこの結果	症状により上手くできないだけで、決して怠けているわけではありません。
ね	ねえ こんなに穏やかになれますよ 安心できる器の中で	居心地が良い場所ではイライラも落ち着きます。
の	のんびりしているようで内情はとても焦っています	のんびりしているように見えても本人なりに頑張っていることがあります。
は	話したい事がたくさんあるのに 言葉がどこかでかくれんぼ	言葉が上手く出てこないと、まわりくどい表現になってしまう場合があります。
ひ	他人様の心の内が 何故か一瞬で読めるようになりました	理解してもらえない経験が繰り返されると、警戒心を抱いてしまうことがあります
ふ	普通の昔の自分に戻りたかった けどこれが今の俺の普通です	今の普通に気づくことが、今の自分にとって良い方法を考えるスタートになります。
へ	変な目で見ないで 明日はあなたかも	高次脳機能障害はいつ誰がなってもおかしくない障害です。
ほ	本物の優しさには敏感です	本人の事をしっかりと考えての言動は必ず響くのです。
ま	迷子ではありません 大人ですもの道に迷っただけです	道に迷いやすくなる場合もありますが、年齢に応じた対応が必要です。
み	皆さんの事はよく見えています 見えていないのは自分の事だけ	他人のことには気づけても、自分のことを客観的に見ることは難しいです。
む	昔は俺だってできていた	以前に出来ていたことが出来ないということは非常に辛いものです。
め	メモした事は覚えています	本人にあった代償手段を選ぶことが大事で

	ただ書いたメモが見当たらない	す。付箋やカレンダーも有効です。
も	モヤか？霧か？頭の中に強力ワイパー欲しくなり	脳が疲れてくると頭に霧がかかったように感じる場合があります。
や	やってしまったー！次は絶対に失敗しないぞとその時は思います	失敗体験は予想以上に本人を傷つけます。支持的な関わりが重要です。
ゆ	ゆっくりなんかしていません これでも急いでやっているのです	思考や判断力が低下すると処理スピードが低下することがあります。
よ	よく頑張ったね 素晴らしい！の一声で天にも昇ります	人から誉められるとうれしいと同時に自信やモチベーションにつながります。
ら	楽な生き方してみたい	日々不便さや不自由さを感じていると、そう思うこともありますよね。
り	リラックス コーヒー一杯で気分転換	作業の合間の休憩は大切です。リラックスタイムで作業効率もアップします。
る	ルーズだと言わないで 一生懸命やってるよ	本人のペースを周囲が理解することが大事です。
れ	冷静になるのに時間はかかりません あなたの対応次第です	周りの関わり方次第で本人の気持ちが安定することもあります。
ろ	論より証拠 分かりあえる仲間がいる事が一番です	仲間ができるきっかけとして家族会や交流会があります。
わ	わがままではありません あなたが話す意味が全く理解できないだけなのです	本人に伝わりやすい方法や手段を考えて伝えることが重要です。
を	私「を」抜きに 私のこと「を」決めないで	本人の話をよく聞いて、自分自身で決められるように関わるのが大切です。
ん	んーん・・・あれだよあれ！	失語症によって言いたい言葉がスムーズに出てこないことがあります。

## 高次脳機能障がい者が普段感じていることを カルタにしました



普段当事者が感じていることを  
遊びながら知ることができる  
イラストがあってわかりやすい  
会話のきっかけにも使える



### 遊び方の一例

1. 基本のかるたルール
2. 50音並び替えゲーム
3. 神経衰弱
4. 人数集めゲーム

など様々な遊び方があります。

### どうやって借りることができるの？

各障がい保健福祉圏域の拠点となっている機関（裏面参照）に配布しています。近隣の拠点機関に直接お問い合わせいただくか、いわてリハビリテーションセンターまでお問い合わせください。

### お問い合わせ先

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター  
高次脳機能障害支援普及事業担当 上田・大江  
TEL：019-692-5800  
FAX：019-692-5807  
E-mail：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

高次脳機能障がいカルタは岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として作成しました。

1. 岩手県支援拠点機関		
名称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森16-243	019-692-5800

2. 地域支援拠点機関（令和元年度）			
圏域	名称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字東町11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター カシオペア	二戸市石切所字川原46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第1地割151-1	0194-52-8177
釜石 大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目8-10	0193-21-1156
胆江	障がい者地域相談支援センター ふれあい	奥州市江刺岩谷堂下惣田290-1	0197-36-8525
※胆江圏域は年度ごとに拠点が変更になります。			
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南地区	上記盛岡本部にご連絡ください。	
両磐	地域支援拠点機関がありませんので、 いわてリハビリテーションセンターまでお問い合わせください。		

# 高次脳機能障がいかるた 使い方

はじめに	
<p>「高次脳機能障がいかるた」には、当事者が実際に感じたことや経験したことが書かれています。当事者がどのようなことを感じているか、日本で昔から親しまれているかるた遊びを通して知っていただきたいと思い、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として作成しました。レクリエーションや認知訓練など、様々な形で利用していただければ幸いです。</p>	
中に入っているもの	
・読み札 46枚    ・絵札 46枚    ・早見表    ・使い方	
遊び方	
<p>1. 基本のかるたのルール（2人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①読み手と取り手を決める</li> <li>②よく混ぜた絵札を床やテーブルに表を上にして並べる                     <ul style="list-style-type: none"> <li>●きれいに並べると見やすくなる</li> <li>●ばらばらに並べると見えにくいところもあり、難易度が上がる</li> </ul> </li> <li>③読み手が読んだものと同じ絵札をとる。 手が重なった場合、下に手がある人のものとなる</li> <li>④読み札がなくなった時に持っている絵札が多いほうが勝ち ※違う絵札を取るなど、お手付きをしたら一回休みです</li> </ol>	
<p>2. 50音並べ替え（1人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①絵札、または読み札をよく混ぜて、同じ数ずつ配る</li> <li>②「あ」「か」「さ」「た」「な」「は」「ま」「や」「ら」「わ」の札を最初に出す</li> <li>③順番通りに繋がるように並べる。 例)「あ」の下には「い」、「な」の次は「に」を並べる など 複数人で行う時は最初に順番を決めて順番に一枚ずつ置く</li> <li>④置くことができる札がない場合は、パスをする</li> <li>⑤複数人で行う時は、最初に札がなくなった人の勝ち</li> </ol>	
<p>3. 神経衰弱（2人以上）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①読み札をよく混ぜて裏を上にして並べる</li> <li>②絵札をよく混ぜて裏を上にして並べる ※読み札と絵札が混ざらないように場所を離して並べる</li> <li>③それぞれ一枚ずつめくり、読み札と絵札が合っていたら取る。 正解の場合は続ける 違うカードをめくった場合は元の場所に裏返して置き、次の人に交代する</li> <li>④終了時にたくさんカードを持っている人が勝ち</li> </ol> <p>※2セット使うと「読み札と読み札」「絵札と絵札」で行うこともできます ※あ行とか行だけをを使うなど、最初は少ない札から始めるとやりやすいです</p>	

#### 4. 人数集めゲーム（2人以上）

- ①絵札をよく混ぜて裏向きに並べる
- ②一人ずつ札を選んで一枚ずつ順番に取る（合計3枚）
- ③カードに描かれている人の合計が多い人が勝ち
- ④同じ人数の場合は、もう一枚ずつ取って札に書かれた人数が多い人が勝ち

※「タイマーを用意して、アラームが鳴るまでに札を取らなければいけない」、「同じ人数の場合、男の人が多い方が勝ち」などのルールを追加することもできます



#### 5. 行そろえゲーム（2人以上）

- ①絵札をよく混ぜて、5枚ずつ配る
- ②山札から一枚引いて、一枚捨てる
- ③最初に行がそろった人が勝ち
- ④山札が無くなったら捨てた札を集めてよく混ぜて山札にする

##### そろえ方

「あ・い・う・え・お」、「か・き・く・け・こ」、「さ・し・す・せ・そ」  
「た・ち・つ・て・と」、「な・に・ぬ・ね・の」、「は・ひ・ふ・へ・ほ」  
「ま・み・む・め・も」、「や・ゆ・よ・わ・を」、「ら・り・る・れ・ろ」

※「ん」はオールマイティでどこにでも入れます



#### 6. 体験を語るきっかけにする

交流会などで話をする時、なかなかきっかけがつかめない時にテーマを決めるためにカルタを使う事もできます。

※他にもいろいろな遊び方があると思います。もし、面白い遊びを思いついた！という方は連絡を下さい。

#### お問い合わせ

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援普及事業担当 上田・大江  
TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 E-mail：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

高次脳機能障がい者支援ツール  
「高次脳機能障がいカルタ」を通じた  
今後の普及活動に関する一考察

いわてリハビリテーションセンター  
○大江みづほ 阿部深雪 八重樫一洋 上田大介 吉田賢史  
村上敬明 後藤敦博 村田美歩 大井清文

はじめに

高次脳機能障がいとは

- 事故や脳卒中によって脳損傷をきたした場合には、記憶障がい・注意障がい・遂行機能障がい・社会的行動障がい生じた状態
- 身体の障がいを伴わない人も多く、見た目だけでは障害の有無の判別が難しい
- 一般的に高次脳機能障がいの認知度は他の障がいに比べて低く、当事者・家族も事故・病気に初めて知ることもある

はじめに

- いわてリハビリテーションセンターでは、楽しみながら障がいについて学べるツールとして「高次脳機能障がいカルタ」を作成
- 当事者のリハビリや家族会での活動、県民向けの普及活動等で活用することとした
- 今回は高次脳機能障がいカルタを使った普及活動について、今までの活動と今後の課題について報告する



高次脳機能障がいカルタ作成の過程

- きっかけは患者さんの言葉  
自分の症状に対して「イラっときたら3秒待つ」  
『症状や当事者の思い、対応方法を短い言葉で表したらわかりやすいのではないか』



- 楽しみながら障がいについて学べる「高次脳機能障がいカルタ」を作成することとした
- 就労継続B型事業所 生々学舎アタージュの利用者、いわて高次脳機能障がい者友の会イーハトーヴ（家族会）と協働で読み札を作成

高次脳機能障がいカルタ作成の過程

- 絵札における一言メモの作成  
読み札の内容の解説や支援する際のポイントを絵札に記載



高次脳機能障がいの症状や当事者の思いと一緒に、支援のポイントを知ることができる



高次脳機能障がいカルタ作成の過程③

- 遊び方の検討  
岩手県高次脳機能障がい者支援ワーキンググループ会議にて様々な遊び方を実践し、内容を検討

1. 通常のカルタ
2. 神経衰弱
3. 50音並べ
4. 人数集めゲーム など



### 考察と今後の課題

効果があった点・よかった点

【当事者・家族】

- 内容に共感しやすく、印象に残りやすい
- 当事者の障がいへの気づき、家族の障がい理解につながる
- 家族会で話のきっかけとなる

### 考察と今後の課題

効果があった点・よかった点

【県民】

- 楽しみながら気軽に障がいを知ることができる
- 世代を問わず使用することができる
- 今までの普及活動で対象とならなかった方にも障がいを知ってもらうきっかけとなる

### 考察と今後の課題

課題点・注意が必要な点

【当事者・家族】

- 読み札の内容に傷つく可能性もある
- 障がいを受け入れる過程で、症状を知ることが必要  
受傷からの期間や精神状態を考慮して使用する
- 障がいの程度・症状によって参加が難しい場合もある
- 役割をつくる、通常のカルタ以外の遊び方で参加できるように配慮が必要

### 考察と今後の課題

課題点・注意が必要な点

【県民】

- カルタだけではわからない情報もある
- 障がいが生じる原因や主要症状など基本的な情報については記載がないため、改めて説明が必要
- 今後県民向けに広く周知するためにどのような場で使用していくか
- イベントでの使用、関係機関を通じた周知を検討していく

### まとめ

- 高次脳機能障がいカルタは、当事者・家族にとってはリハビリや障がい理解のためのツールとして、また全く障がいを知らない人にとっては、わかりやすく障がいを学べるツールとして、今後も一定の効果が期待できる
- わかりやすさはあるが、カルタだけでは情報が不十分な面もある。カルタをきっかけとして、正しい情報を伝えていく工夫を検討する必要がある
- 高次脳機能障がいをより多くの人に知ってもらうため、今後もイベント等での周知を検討していく



ご清聴ありがとうございました

### Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関

#### 1. 岩手県支援拠点機関

名称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

#### 2. 地域支援拠点機関（令和元年度）

圏域	名称	所在地	電話番号
宮古	NPO 法人 宮古圏域障がい者福祉推進ネット（レインボーネット）	宮古市緑ヶ丘 2-3 はあとふるセンターみやこ	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲相談室	大船渡市盛町字東町 11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第1地割 151-1	0194-52-8177
釜石・大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	障がい者地域相談支援センターふれあい	奥州市江刺岩谷堂下惣田 290-1	0197-36-8525
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手中部	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地役場の障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

※胆江圏域は年度持ち回り制のため、年度ごとに支援拠点機関が変更となります。

**【編集後記】**

昨年度に引き続き、当事業について報告書をまとめることができました。県内の関係機関の皆様、研修や会議等でお世話になった皆様に感謝申し上げます。

年度末より、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、会議や家族会は中止となったケースが多くありました。従来の形とは変わっても、また多くの皆様とつながることができるよう、事業を継続して参りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。(大江)

2019 年度

岩手県高次脳機能障がい支援普及事業及び  
高次脳機能障がい地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター  
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

T E L 019-692-5800

F A X 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

H P <http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>